

目次

1. 工作機械統計・産業動向

- ◆米国工作機械受注統計(8月) 1
- ◆米国工作機械受注統計(地域別) 2
- ◆台湾工作機械輸出入統計(2025年7月) 2
- ◆韓国工作機械主要統計(2025年7月) 3
- ◆中国の工作機械輸入動向(8月) 6
- ◆インド工作機械輸入動向(7月) 6

2. 主要国・地域経済動向

- ◆米国：PMI 49.1%(9月) 7
- ◆中国製造業 PMI 49.8%(9月) 8
- ◆インドアルミ押出成形工業会、
米国関税への対抗策 8
- ◆イタリア工作機械動向 2025年見通し 9
- ◆2025年Q2中国工作機械市場 11
- ◆海外業界動向：ラテンアメリカ 17
- ◆米国通商政策動向：
トランプ政権、新半導体政策 18
BIS(米国商務省)、50%ルール概要と分析 19
日米貿易合意 21
Giant Manufacturing社と強制労働 23
エンティティリスト、追加事業体 24
最高裁によるIEEPA関税の審査と
米国貿易政策への影響 26
ロボットおよび産業機械の輸入に対する
第232条の影響 29

3. 工作機械関連企業動向

- ◆ウィア工作機械、ハンファロボティクスと
協同ロボット自動化ソリューション 30
- ◆シーメンスとTRUMPF、
デジタル製造とAI対応の加速で提携 30
- ◆トルンプ、積層造形事業をレンパツハ・
エクイティ・オポチュニティーズに売却 31
- ◆DMG MORI USAテクノロジーセンター、
中西部地域におけるサポートを拡大 31
- ◆Kitamura Machinery、ブラジルでのサポート
強化に向けSAF Maquinas社と提携 32
- ◆Mikron Automation Boudry、
敷地拡張工事の上棟式を挙行 32

4. 展示会情報

- ◆2025年中国国際工業博覧会 34
- ◆EMO Hannover 2025、AIと自動化を推進 37
- ◆スペインBIEMH展、共同ブース出展募集 39

5. その他

- ◆ユーザー産業動向 40

6. 日工会外需状況(8月) 38

お知らせ

- ◆IMTEX2027日本パビリオン出展募集 48
- ◆インドBIS認証セミナー 50

1. 工作機械統計・産業動向

◆米国工作機械受注統計(8月)

AMT(米国製造技術工業協会)が発表した米国製造技術受注レポートによると、金属加工機械の新規受注額は2025年8月に5億2,940万ドルであった。これは前月比で36.2%増、前年同月比で約45%増となる。2025年1月～8月の機械受注累計額は34億4,000万ドルで、前年同期比で18.3%増加した。

機械受注は、経済的な逆風にもかかわらず、8月まで底堅さを示したが、年内残りの追加投資を阻害する可能性のある不確実性要因がいくつか残っている。10月1日に連邦政府機関の閉鎖が始まった後、インフラプロジェクトが中止された。政府資金によるプロジェクトに依存しているメーカーは、プロジェクトの信頼性が確保されるまで、追加機械への投資を延期する可能性がある。さらに、最近発表された関税対象製品のリストに製造技術製品が含まれていることで、米国の産業基盤の拡大と向上に必要な技術への追加投資が阻害される可能性がある。

(USMTOレポート 2025年10月13日付)

米国工作機械受注統計

(金額単位：千ドル)

年 月	切削型受注		成型型受注	
	台 数	金 額	台 数	金 額
2024年 8月	1,585	358,905	14	6,401
9月	1,896	436,098	17	8,225
10月	1,619	377,886	15	6,099
11月	1,759	436,077	20	3,871
12月	1,972	496,716	22	12,589
2025年 1月	1,526	350,504	18	4,234
2月	1,655	377,566	17	5,763
3月	1,888	505,037	17	12,481
4月	1,755	438,122	16	5,895
5月	1,501	381,474	21	11,218
6月	1,586	422,388	16	D
7月	1,560	385,743	8	D
8月	1,823	524,849	18	4,512
平均	1,702	422,411	17	7,390

◆米国工作機械受注統計(地域別)

(金額単位：百万ドル)

地域別	2025年8月(P)	2025年7月	前月比 (%)	前年同月	前年同月比 (%)	2025年累計(P)	2024年累計 (R)	前年同期比 (%)
全米	529.4	388.6	36.2	365.3	44.9	3,437.6	2907.1	18.3
北東部	84.2	55.9	50.5	58.4	44.1	521.0	487.0	7.0
南東部	81.4	51.1	59.2	55.9	45.7	450.4	406.4	10.8
北中東部	88.3	93.2	-5.3	69.3	27.3	774.7	661.7	17.1
北中西部	96.6	51.5	87.8	78.8	22.6	574.6	577.9	-0.6
南中部	61.2	50.6	20.8	33.6	81.9	372.5	255.8	45.6
西部	117.7	86.3	36.4	69.2	70.0	744.5	518.3	43.6

P：暫定値 R：改定値
データは成型形含む

◆台湾工作機械輸出入統計(2025年7月)

台湾工作機械輸出入統計(2025年1-7月)

(単位：千USDドル)

機 種 名	輸 出			輸 入		
	2024.1-7	2025.1-7	前年比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年比(%)
放電加工機・レーザ加工機	90,454	89,880	-0.6	112,829	153,744	36.3
マシニングセンタ	373,449	361,162	-3.3	34,074	85,948	152.2
旋盤	309,940	251,613	-18.8	35,431	29,710	-16.1
ボール盤・フライス盤・中ぐり盤	89,454	84,940	-5.0	8,709	6,132	-29.6
研削盤	123,991	124,051	0.0	25,835	21,749	-15.8
歯切り盤・歯車機械	64,335	55,881	-13.1	17,778	19,201	8.0
切 削 型 合 計	1,051,623	967,527	-8.0	234,656	316,484	34.9

出所：TAMI

台湾工作機械国別輸出入統計(2025年1-7月)

(金額単位：千USドル)

輸 出						輸 入					
順位	国 別	2024.1-7	2025.1-7	割合(%)	前年比(%)	順位	国 別	2024.1-7	2025.1-7	割合(%)	前年比(%)
1	中 国	362,447	311,146	26.5	-14.2	1	日 本	110,777	148,001	35.2	33.6
2	米 国	194,096	206,159	17.6	6.2	2	ベルギー	389	92,416	22.0	23,657.3
3	トルコ	125,244	92,823	7.9	-25.9	3	中 国	61,140	67,192	16.0	9.9
4	インド	79,156	79,953	6.8	1.0	4	ド イ ツ	30,975	31,303	7.4	1.1
5	タイ	30,965	54,440	4.6	75.8	5	ス イ ス	13,336	23,620	5.6	77.1
6	ベトナム	46,211	52,690	4.5	14.0	6	韓 国	16,818	14,155	3.4	-15.8
7	日 本	27,438	30,735	2.6	12.0	7	米 国	9,888	9,523	2.3	-3.7
8	オランダ	33,956	27,484	2.3	-19.1	8	タイ	7,743	7,764	1.8	0.3
9	イタリア	24,431	20,608	1.8	-15.6	9	イスラエル	4,012	5,048	1.2	25.8
10	ド イ ツ	35,699	20,272	1.7	-43.2	10	イ タ リ ア	10,105	4,787	1.1	-52.6
11	英 国	21,993	20,217	1.7	-8.1	11	台 湾	8,419	3,831	0.9	-54.5
12	ブラジル	16,979	20,176	1.7	18.8	12	シンガポール	414	2,940	0.7	610.1
13	マレーシア	18,545	18,913	1.6	2.0	13	リトアニア	-	2,596	0.6	0.0
14	韓 国	27,970	18,870	1.6	-32.5	14	オーストリア	2,763	1,437	0.3	-48.0
15	メキシコ	15,985	16,001	1.4	0.1	15	ス ペ イ ン	169	1,296	0.3	666.9
16	インドネシア	17,730	15,616	1.3	-11.9	16	スウェーデン	5,115	940	0.2	-81.6
17	オーストラリア	13,603	12,906	1.1	-5.1	17	チ ェ コ	237	705	0.2	197.5
18	ベルギー	7,178	11,993	1.0	67.1	18	オランダ	627	650	0.2	3.7
19	カナダ	12,567	11,227	1.0	-10.7	19	英 国	1,992	548	0.1	-72.5
20	ポーランド	8,460	11,135	0.9	31.6	20	デンマーク	76	513	0.1	575.0
21	フランス	12,275	10,294	0.9	-16.1		そ の 他	1,294	1,146	0.3	-11.4
22	スペイン	7,706	9,326	0.8	21.0						
23	南アフリカ	5,455	7,097	0.6	30.1						
24	シンガポール	5,134	6,209	0.5	20.9						
25	ウクライナ	2,984	5,422	0.5	81.7						
26	サウジアラビア	3,296	5,339	0.5	62.0						
27	アラブ首長国	8,239	4,721	0.4	-42.7						
28	チ ェ コ	2,123	4,654	0.4	119.2						
29	香 港	3,968	3,945	0.3	-0.6						
30	フィリピン	5,215	3,818	0.3	-26.8						
	そ の 他	76,920	60,162	5.1	-21.8						
	合 計	1,253,968	1,174,351	100.0	-6.3		合 計	286,289	420,411	100.0	46.8

出所：海関進出口統計月報

◆韓国工作機械主要統計(2025年7月)

○業種別受注(2025.7) 韓国工作機械受注(2025年7月) (単位：百万ウォン)

需要業種	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
鉄鋼・非鉄金属	6,526	3,378	-48.2	27,582	24,424	-11.4
金属製品	40	103	157.5	7,264	1,455	-80.0
一般機械	19,069	8,484	-55.5	206,905	173,385	-16.2
電気機械	6,142	5,725	-6.8	83,599	59,933	-28.3
自動車	37,811	18,507	-51.1	228,366	248,076	8.6
造船・輸送用機械	2,370	3,654	54.2	51,882	36,994	-28.7
精密機械	9,934	3,105	-68.7	29,818	44,520	49.3
その他製造業	7,228	5,341	-26.1	38,841	37,027	-4.7
官公需・学校	359	1,235	244.0	2,583	3,927	52.0
商社・代理店	6,795	5,569	-18.0	53,240	43,167	-18.9
その他	0	0	-	13,756	0	-
内 需 合 計	96,274	55,101	-42.8	743,836	672,908	-9.5
外 需	197,196	150,866	-23.5	1,125,549	1,152,847	2.4
総 合 計	293,470	205,967	-29.8	1,869,385	1,825,755	-2.3

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別受注(2025.7)

(単位：百万ウォン)

機 種	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	288,807	201,993	-30.1	1,828,127	1,780,303	-2.6
NC旋盤	143,993	106,062	-26.3	869,901	874,705	0.6
マシニングセンタ	97,992	73,532	-25.0	654,515	648,078	-1.0
NCフライス盤	0	145	-	4,775	2,569	-46.2
NC専用機	28,999	8,343	-71.2	168,285	143,903	-14.5
NC中ぐり盤	5,475	6,372	16.4	52,567	49,421	-6.0
NCその他の工作機械	8,102	5,526	-31.8	51,238	42,652	-16.8
非 N C 小 合 計	3,142	2,882	-8.3	24,764	32,369	30.7
旋盤	1,220	1,150	-5.7	8,277	12,474	50.7
フライス盤	1,205	838	-30.5	7,280	10,745	47.6
ボール盤	38	70	84.2	287	313	9.1
研削盤	679	754	11.0	8,679	8,767	1.0
専用機	0	0	-	0	0	-
その他の工作機械	0	0	-	20	0	-
金 属 切 削 型	291,949	204,875	-29.8	1,852,891	1,812,672	-2.2
金 属 成 形 型	1,521	1,092	-28.2	16,494	13,083	-20.7
総 合 計	293,470	205,967	-29.8	1,869,385	1,825,755	-2.3

出所：韓国工作機械産業協会

○生産(2025年7月)

韓国工作機械生産&出荷統計(2025年7月)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	223,715	181,266	-19.0	1,354,091	1,233,186	-8.9
NC旋盤	102,108	80,401	-21.3	653,882	581,446	-11.1
マシニングセンタ	71,130	61,773	-13.2	455,581	422,446	-7.3
NCフライス盤	245	683	178.8	1,264	1,636	29.4
NC専用機	35,570	25,630	-31.8	143,019	150,995	5.6
NC中ぐり盤	3,984	3,346	-16.0	34,458	23,406	-32.1
NCその他	6,413	5,997	-6.5	46,528	35,433	-23.8
非 N C 小 合 計	5,369	3,117	-41.9	25,010	20,418	-18.4
旋盤	316	435	37.7	9,151	1,994	-78.2
フライス盤	1,302	1,449	11.3	5,729	7,549	31.8
ボール盤	268	271	1.1	2,738	2,167	-20.9
研削盤	811	892	10.0	5,337	5,276	-1.1
専用機	2,672	0	-	1,834	3,362	83.3
その他	0	0	-	0	0	-
金 属 切 削 型 合 計	229,084	184,383	-19.5	1,379,101	1,253,604	-9.1
金 属 成 形 型 合 計	15,156	15,376	1.5	111,654	110,005	-1.5
総 合 計	244,240	199,759	-18.2	1,490,755	1,363,609	-8.5

出所：韓国工作機械産業協会

○出荷(2025.7)

(単位：百万ウォン)

機 種 別	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	313,660	237,973	-24.1	1,712,113	1,623,690	-5.2
NC旋盤	155,607	111,137	-28.6	834,666	800,252	-4.1
マシニングセンタ	107,362	85,545	-20.3	620,881	565,263	-9.0
NCフライス盤	245	683	178.8	1,264	1,636	29.4
NC専用機	37,570	25,630	-31.8	143,022	170,159	19.0
NC中ぐり盤	4,259	5,489	28.9	49,114	33,169	-32.5
NCその他	6,352	6,053	-4.7	43,808	35,387	-19.2
非 N C 小 合 計	7,945	6,085	-23.4	26,072	34,520	32.4
旋盤	2,715	2,602	-4.2	9,138	14,427	57.9
フライス盤	1,348	1,509	11.9	5,704	7,866	37.9
ボール盤	350	533	52.3	3,172	2,580	-18.7
研削盤	860	1,371	59.4	5,979	6,215	3.9
専用機	2,672	0	-	1,834	3,362	83.3
その他	0	0	-	24	0	-
金 属 切 削 型 合 計	321,605	244,058	-24.1	1,738,185	1,658,210	-4.6
金 属 成 形 型 合 計	1,393	2,630	88.8	12,239	11,229	-8.3
総 合 計	322,998	246,688	-23.6	1,750,424	1,669,439	-4.6

出所：韓国工作機械産業協会

○機種別輸出(2025.7) 韓国工作機械輸出統計(2025年7月) (単位：千USドル)

機種別	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	141,015	117,133	-16.9	1,072,410	940,078	-12.3
NC旋盤	83,721	57,869	-30.9	512,495	471,529	-8.0
マシニングセンタ	38,454	34,721	-9.7	285,188	272,133	-4.6
NCフライス盤	1,678	769	-54.1	9,397	10,094	7.4
NC専用機	0	0	-	28,316	11,799	-58.3
NC中ぐり盤	2,914	2,657	-8.8	37,879	19,956	-47.8
レーザ加工機	8,474	15,928	88.0	150,010	116,462	-22.4
NCその他	3,307	1,874	-43.3	21,375	20,068	-6.1
非 N C 小 合 計	7,163	5,914	-17.4	84,409	56,520	-33.0
旋盤	387	804	107.9	6,477	4,827	-25.5
フライス盤	145	372	156.9	7,809	5,301	-32.1
ボール盤	1,407	454	-67.7	3,308	4,073	23.1
研削盤	1,747	1,056	-39.6	5,511	6,510	18.1
専用機	10	0	-99.2	98	342	249.1
その他	1,121	2,242	99.9	26,935	21,886	-18.7
金 属 切 削 型 合 計	148,178	123,047	-17.0	1,156,819	996,598	-13.9
金 属 成 形 型 合 計	26,901	44,724	66.3	333,051	295,276	-11.3
総 合 計	175,078	167,771	-4.2	1,489,871	1,291,874	-13.3

出所：韓国通関局

○仕向け国別輸出(2025.1-7) (単位：千USドル)

機種別	アジア	中国	インド	アメリカ	欧州	ドイツ	トルコ
NC小合計	254,880	79,822	58,099	303,451	281,954	107,097	75,045
NC旋盤	89,276	30,983	31,066	160,056	185,921	70,738	56,791
マシニングセンタ	62,814	22,594	18,339	97,550	79,490	30,343	17,160
NCフライス盤	4,817	2,766	1,227	921	2,499	184	2
NC専用機	151	0	0	3	0	0	0
NC中ぐり盤	8,209	4,510	1,927	8,031	2,612	1,239	0
レーザ加工機	69,735	11,094	3,637	25,040	7,870	2,637	370
NCその他	6,365	791	905	9,744	2,008	1,768	0
非NC小合計	24,533	6,477	4,721	10,929	9,678	848	770
旋盤	1,878	7	553	226	890	31	73
フライス盤	2,001	471	568	1,689	711	162	325
ボール盤	1,364	22	399	1,570	125	92	0
研削盤	3,336	1,012	753	659	1,785	0	244
専用機	172	171	1	29	113	113	0
その他	9,133	3,927	677	5,940	1,138	189	13
金 属 切 削 型 合 計	279,413	86,299	62,820	314,380	291,632	107,945	75,815
金 属 成 形 型 合 計	135,338	39,277	41,911	72,317	37,639	3,237	5,155
総 合 計	414,751	125,577	104,730	386,697	329,271	111,181	80,970

出所：韓国通関局

○機種別輸入(2025.7) 韓国工作機械輸入統計(2025年7月) (単位：千USドル)

機 種 別	2025.6	2025.7	前月比(%)	2024.1-7	2025.1-7	前年同期比(%)
N C 小 合 計	57,510	53,546	-6.9	351,188	366,875	4.5
NC旋盤	3,960	5,368	35.6	46,827	34,858	-25.6
マシニングセンタ	15,594	15,040	-3.5	85,151	86,487	1.6
NCフライス盤	6,531	944	-85.5	5,424	8,903	64.1
NC専用機	0	0	139.5	1,615	2,888	78.8
NC中ぐり盤	9	129	1,333.3	2,894	6,413	121.6
レーザ加工機	18,802	20,096	6.9	131,616	133,098	1.1
NCその他	938	1,624	73.2	7,796	5,300	-32.0
非 N C 小 合 計	9,614	14,401	49.8	52,078	59,187	13.6
旋盤	431	1,373	218.4	5,190	3,811	-26.6
フライス盤	106	2,407	2,170.8	3,256	4,032	23.8
ボール盤	484	504	4.0	3,981	2,336	-41.3
研削盤	2,322	2,822	21.5	7,524	14,106	87.5
専用機	2	0	-	2,972	254	-91.4
その他	4,133	5,008	21.2	12,872	19,392	50.7
金 属 切 削 型 合 計	67,124	67,947	1.2	403,266	426,062	5.7
金 属 成 形 型 合 計	11,289	14,069	24.6	115,139	90,876	-21.1
総 合 計	78,414	82,016	4.6	518,405	516,938	-0.3

出所：韓国通関局

○輸入国別(2025.1-7)

(単位：千USドル)

機種別	アジア	日本	台湾	米国	欧州	ドイツ	イタリア
N C 小 合 計	269,135	129,367	13,519	13,199	82,624	49,751	12,310
NC旋盤	31,848	23,705	0	744	2,266	786	0
マシニングセンタ	64,922	47,147	8,952	3,001	18,565	17,876	480
NCフライス盤	2,298	259	0	1	6,604	6,350	20
NC専用機	384	383	0	0	2,503	0	1,474
NC中ぐり盤	1,488	965	0	0	4,922	468	4,454
レーザ加工機	112,791	25,419	731	1,771	17,539	6,382	1,324
NCその他	2,675	1,097	11	1,903	701	570	29
非 N C 小 合 計	38,601	19,719	4,427	2,426	16,363	10,747	307
旋盤	3,761	1,755	442	0	48	16	0
フライス盤	2,594	2,047	20	760	673	311	110
ボール盤	1,794	345	509	3	464	98	0
研削盤	11,828	8,258	1,961	53	2,226	218	4
専用機	195	179	0	55	4	0	4
その他	8,310	3,050	198	925	8,441	7,205	0
金 属 切 削 型	307,736	149,086	17,946	15,625	98,987	60,498	12,617
金 属 成 形 型	54,889	20,747	1,380	2,451	33,522	15,419	3,839
総 合 計	362,625	169,834	19,326	18,076	132,509	75,917	16,456

出所：韓国通関局

◆中国の工作機械輸入動向（8月）

2025年8月の工作機械輸入額は約4億1,250万ドル。

(単位：百万ドル)

	2025年					
	3月	4月	5月	6月	7月	8月
日 本	203.7	236.9	139.3	157.9	170.8	177.9
ド イ ツ	82.4	105.9	102.8	81.2	95.1	87.3
台 湾	33.8	38.8	38.5	43.0	43.8	49.0
ス イ ス	29.1	22.4	27.7	25.4	23.0	22.7
シンガポール	20.6	18.5	17.7	17.2	12.9	11.8
韓 国	8.8	18.9	5.8	8.3	14.1	9.8
米 国	5.1	4.7	3.5	3.2	3.8	8.6
そ の 他	42.2	40.5	42.0	44.0	28.4	45.3
全 輸 入 額	425.7	486.6	377.4	380.3	392.0	412.5

出所：ジェトロ

◆インド工作機械輸入動向（7月）

2025年7月の工作機械輸入額は約1億5,305万ドル。

(単位：百万ドル)

	2025年					
	2月	3月	4月	5月	6月	7月
中 国	22.0	27.7	26.8	29.9	23.8	35.0
日 本	26.4	76.5	51.1	52.8	58.2	33.7
ド イ ツ	19.7	15.0	29.8	20.0	10.0	19.1
イ タ リ ア	4.7	4.6	3.5	4.7	17.5	10.3
韓 国	8.8	7.4	11.9	14.4	8.1	9.8
台 湾	9.0	11.7	9.2	10.0	7.9	9.6
米 国	5.9	4.7	6.6	5.2	5.2	7.3
そ の 他	26.3	24.5	35.3	27.9	26.5	28.3
全 輸 入 額	151.1	167.0	122.7	172.2	174.1	165.0

出所：ジェトロ

2. 主要国・地域経済動向

◆米国：PMI 49.1%（9月）

最新のISM®製造業PMI®レポートによると、製造業の経済活動は9月に7ヶ月連続で縮小した。2ヶ月間の拡大の後、26ヶ月連続で縮小したことによる。

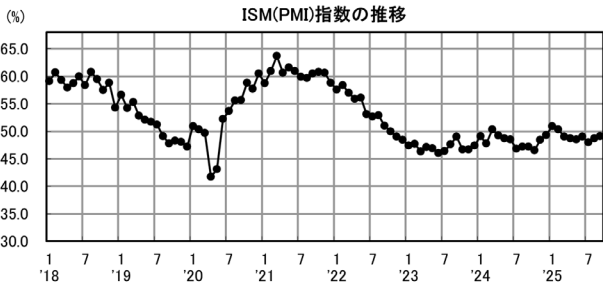
9月の製造業PMI®は49.1%となり、8月の48.7%から0.4ポイント上昇した。経済全体は、2020年4月に1ヶ月の縮小を記録した後、65ヶ月連続で拡大を続けた。（製造業PMI®が一定期間にわたって42.3%を超える場合、一般的に経済全体の拡大を示している。）新規受注指数は、1ヶ月の成長の後、9月に縮小し48.9%となり、8月の51.4%から2.5ポイント低下した。9月の生産指数51%は、8月の47.8%から3.2ポイント上昇した。物価指数は引き続き拡大（または「増加」領域）にあり、61.9%となり、8月の63.7%から1.8ポイント低下した。受注残指数は46.2%となり、8月の44.7%から1.5ポイント上昇した。雇用指数は45.3%となり、8月の43.8%から1.5ポイント上昇した。

「9月の米国製造業活動は若干減速し、製造業PMI®の0.4%ポイント上昇の最大の要因は生産の伸びであった。しかし、新規受注指数と在庫指数の合計下落率(4.2%ポイント)は生産指数の上昇率(3.2%ポイント)を上回り、製造業PMI®の改善はごくわずかであった。先月の新規受注増加(7月から8月にかけて4.3%ポイント上昇)は生産に波及したように見えたが、9月の新規受注の減少を考えると、この上昇は持続可能ではないようだ。」

9月に成長を報告した製造業5分野は、石油および石炭製品、鉄鋼・非鉄鋼、繊維工場、金属加工製品、およびその他の製造業。

ISMが発表した9月の主要個別指数の前月比変動傾向は以下の通り。

項 目	2025年9月指数(%)	2025年8月指数(%)	備 考
ISM 指数(PMI)	49.1	48.7	前月比0.4ポイント増。PMIが50%を上回ると製造業の拡大を示唆。
新 規 受 注	48.9	51.4	前月比2.5ポイント減。拡大の基準は52.1である。6業種が増加を報告した。
生 産	51.0	47.8	前月比3.2ポイント増。拡大の基準は、52.1である。8業種が増加を報告。
雇 用	45.3	43.8	前月比1.5ポイント増。1業種が増加を報告した。
入 荷 遅 延	52.6	51.3	前月比1.3ポイント増。長期化の基準は、50以上。18業種中9業種が長期化を報告した。
在 庫	47.7	49.4	前月比1.7ポイント減。拡大の基準44.4ポイントを上回った。7業種が在庫増を報告した。
顧 客 在 庫	43.7	44.6	前月比0.9ポイント減。3業種が増加を報告した。
仕 入 れ 価 格	61.9	63.7	前月比1.8ポイント減。13業種が増加を報告した。
受 注 残	46.2	44.7	前月比1.5ポイント増。4業種が増加を報告した。
輸 出 受 注	43.0	47.6	前月比4.6ポイント減。増加を報告した業種はなし。
原 材 料 輸 入	44.7	46.0	前月比1.3ポイント減。増加を報告した業種なし。



(ISM Manufacturing Report on Business 2025年10月1日付))

◆中国製造業 PMI 49.8%（9月）

9月の中国製造業購買担当者景気指数(PMI)は49.8%となり、前月比0.4ポイント上昇した。製造業の景況感は引き続き改善している。

企業規模別に見ると、大企業PMIは51.0%で前月比0.2ポイント上昇し、基準値を上回った。中規模企業PMIは48.8%で前月比0.1ポイント低下し、基準値を下回った。小規模企業PMIは48.2%で前月比1.6ポイント上昇し、依然として基準値を下回った。

製造業PMIを構成する5つのサブ指数のうち、生産指数とサプライヤー納期指数は基準値を上回ったが、新規受注指数、原材料在庫指数、雇用指数は基準値を下回った。

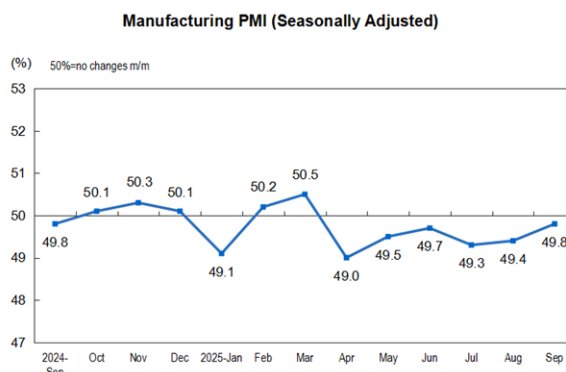
生産指数は51.9%で、前月比1.1ポイント上昇し、製造業の生産拡大が加速していることが示された。

新規受注指数は49.7%で、前月比0.2ポイント上昇し、製造業の市場需要が引き続き改善していることが示された。

原材料在庫指数は48.5%で、前月比0.5ポイント上昇し、製造業の主要原材料の在庫減少幅が引き続き縮小していることが示された。

雇用指数は48.5%で、前月比0.6ポイント上昇し、製造業の雇用が改善していることが示された。

サプライヤー納期指数は50.8%で、前月比0.3ポイント上昇し、製造業の原材料サプライヤーの納期が引き続き短縮していることが示された。



(Bureau of Statistics of China 2025年10月1日付)

◆インドアルミ押出成形工業会、米国関税への対抗策

インドアルミ押出成形工業会(ALEMAI)は、アルミ押出成形製品の国内消費を強化するための緊急措置を求め、輸入への依存が続くことでアルミ押出成形業界の競争力が損なわれ、世界的な関税ショックの影響を受ける可能性があるとして警告した。

インドのアルミ押出成形産業の設備生産能力は年間300万トンだが、稼働率はわずか120万トンにとどまっている。輸入量は150万トンを超えており、これは主に価格差、自由貿易協定(FTA)による優遇措置、そして複数のHSNコードに基づく付加価値製品への無税アクセスによるものだ。ALEMAIは、セーフガードが導入されない限り、中小企業は存続に関わる課題に直面し続けると考えている。

ALEMAIのジテンドラ・チョプラ会長は、「米国の関税は我々の業界に波及効果をもたらしているが、その影響を緩和するには外部からの救済措置を待つのではなく、国内市場を拡大しなければならない」と述べた。

一部の州では、入札においてUPVC(ポリ塩化ビニル)製のプラスチック製ドア、窓、間仕切りの使用を奨励している。しかし、UPVCの原料は原油由来である。インドは豊富なボーキサイト埋蔵量を有するため、ALEMAIはアルミニウムの国内消費拡大を訴えてきた。「政府がアルミ押出成形の下流付加価値製品をFTAから除外し、安価な輸入品に対する公正なセーフガード措置を確保することで中小企業を支援すれば、インドはアルミ押出成形の世界的リーダーとなることができる。また、原材料供給を確保するため、NALCOのような企業によるビレット生産を増やす必要がある」とチョプラ会長は述べた。

アルミ押出成形工場は全国に存在するが、輸入圧力、原材料価格の高騰と変動、生産遅延により、稼働率が低い状態が続いている。こうした課題にもかかわらず、インドのアルミニウム押出成形市場の長期見通しは依然として堅調である。インフラ整備、自動車産業、再生可能エネルギーの拡大に牽引され、このセクターは大幅な成長を遂げると見込まれている。

建設セクターは、ドア、窓、ファサード、構造用途において引き続き大きな需要を占めている。自動車産業では、軽量化への移行により、アルミニウムプロファイルの使用が拡大すると予想されている。同様に、再生可能エネルギー、特に太陽光発電の拡大は、新たな成長の道筋を示している。

ALEMAIは、これらの機会と課題を明らかにするため、インド初のアルミニウム押出成形専門展示会「ALUMEX India 2025」を開催した。この展示会は9月10日から13日まで、ニューデリーのBharat Mandapamで開催され、200社を超える出展者と、政策立案者、中小企業、大手メーカー、世界中のバイヤーなど、アルミニウムバリューチェーン全体から15,000人を超えるビジネス来場者を集めた。インド国内および世界の主要企業が参加したALUMEX India 2025は、アルミニウム押出成形エコシステムの強化と、インドを世界の製造業リーダーに位置付けることを目的とした。

「ALUMEX India 2025は、インドのアルミニウム押出成形産業の能力に対する自信を示すものであり、輸入依存度を低減し、バリューチェーンを強化することで、アトマニルバー・バーラト(インド経済の未来像)のビジョンへのコミットメントを反映している」とチョプラ氏は付け加えた。このイベントでは、技術のローカライゼーション、グリーン押出成形の実践、中小企業向け政策支援に関するセッションが行われた。FTA、アンチダンピング措置、生産連動型インセンティブ(PLI)がインドのアルミニウム生産拠点の拡大に及ぼす影響についても検証された。

ALUMEX India 2025は、Hindalco社、Vedanta社(商務省)、ジャワハルラール・ネルー・アルミニウム研究開発設計センター(JNARDDC、鉱山省傘下の自治機関)、Yantra India Ltd社(国防省防衛・自治ユニット向け押出成形製品を製造)、EEPC-India社(中小企業省)の支援を受けて開催された。

(Modern Manufacturing India 2025年9月月)

◆イタリア工作機械動向 2025 年見通し

定例記者会見において、イタリア工作機械・ロボット・自動化システム工業会(UCIMU)は、2025年イタリア工作機械産業予測を発表した。

UCIMUのリカルド・ローザ会長は次のように述べている。「イタリアメーカーによる最新の受注と納入状況に基づき、2025年第2四半期に関するデータを修正する必要があった。年初には、輸出に支えられた生産のわずかな増加を予想していたが、現状では、この回復を確定することはできない。」

2025年生産は63億4,000万ユーロ(0.2%増)と、2024年と比較して横ばいとなる見込みである。最終的な結果は、輸出の落ち込みと国内市場の低迷に影響を受ける。

うちイタリアメーカーの海外売上高は前年比38億9,500万ユーロ(8.9%減)にとどまる見込み。

一方、国内では、国内消費の緩やかな回復に牽引され、納入は19.1%増の24億4,500万ユーロに達すると予想される。これは、国内消費が42億3,000万ユーロ(14.1%増)に達すると見込まれていることによるものである。2桁の増加にもかかわらず、これら2つの経済指標の推定絶対値は依然として非常に低いものである。

「UCIMUの予測によれば、このセクターに明確な傾向を見出すことは不可能だ。むしろ、混乱した状況を反映して、上下に変動するパターンが見られる。」と述べた。

輸出に関しては、2025年上半期において、イタリア工作機械販売は前年同期比わずか13.3%の減少にとどまった。この減少はイタリア全体で見られた。例外はポーランド、メキシコ、スイス、アラブ首長国連邦、サウジアラビア。ただし、後者2カ国は大幅な増加にもかかわらず、依然としてイタリア製機械の購入量が極めて少ないことに留意する必要がある。

イタリアの輸出の主な市場は、米国(2億9,200万ユーロ、-4.2%)、ドイツ(1億2,700万ユーロ、-28.1%)、ポーランド(9,700万ユーロ、+8.3%)、フランス(9,700万ユーロ、-7.5%)、インド(8,500万ユーロ、-14.1%)であった。

「これらの数字は、ドイツが苦境に立たされていること、そしてそれに伴い、ドイツのバリューチェーンに統合されている企業群を含むヨーロッパ、特にイタリアが苦境に立たされていることを浮き彫りにしている」とリカルド・ローザ氏は述べた。「ドイツと比較すると、電気自動車への移行の代償を払っている自動車産業と、建設部門の危機の両方において、状況は特に厳しいものとなっている。イタリア経済の活性化を目的とした政府の460億ドル規模のプログラムが、製造業に実際に弾みをつけることを期待している。」

「海外に目を向けると、今年上半期、トランプ大統領による関税に関する数々の発表と度重なる撤回にもかかわらず、米国は依然として我が国の主要輸出市場となっている。状況は非常に複雑で、依然として不透明だ。関税率以外にも、最も懸念されるのは、こうした姿勢が産業界に生み出した不確実性である。このため、米国向けだけでなく、世界各国への輸出も含め、輸出システム全体が減速している。」

「イタリアに関しては、ここ数ヶ月で市場の姿勢が緩やかながらも依然として弱い改善を見せていることが観察された。これは、トランジション5.0の明確化と簡素化による好影響によるものだ。これは、保証生産月数の推移からも裏付けられる。保証生産月数は2025年前半に6.6ヶ月を超えなかった。これは2024年よりは改善しているが、依然として前年度の実績には遠く及ばない。このことを踏まえ、インダストリー4.0とトランジション5.0の適用終了時期である2025年後半が近づいているため、2026年以降に企業を支援するための新たな産業政策計画の必要性を強調する」と述べた。

UCIMUはすでに、企業省およびメイド・イン・イタリー省に対し、簡素化された措置の草案作成に向けた作業部会への参加を要請した。大臣自ら発表したとおり、この簡素化された措置は4.0と5.0を統合し、企業による利用を容易にする。これは、企業がこの措置を利用するための必須条件である。

(UCIMU プレスリリース 2025年9月23日)

◆ 2025 年 Q2 中国工作機械市場

MIR DATABANKは、2025年上半期の中国金属切削工作機械TOP10ランキングを発表した。ランキング入りした企業は、創世紀(CREATE CENTURY)、MAZAK、津上(TSUGAMI)、海天精工(HAITIAN)、北京精雕(BJJD)、紐威数控(NEWAY)、喬峰智能(JIR FINE)、科傑技術(JIATIE)、牧野(MAKINO)、迪恩機床(DN Solutions)である。

2025年上半年金切机床TOP 10 (产品销售额)		
1	 创世纪集团 CREATE CENTURY GROUP	创世纪
2	 Mazak	山崎马扎克
3	 TSUGAMI	津上
4	 HAITIAN PRECISION	海天精工
5	 JD 北京精雕集团 BEIJING JINGDIAO GROUP	北京精雕
6	 NEWAY 纽威数控装备	纽威数控
7	 JIR FINE	乔峰智能
8	 科杰技术 JIATIE	科杰技术
9	 MAKINO	牧野
10	 DN 迪恩机床	迪恩机床

注：MIR DATABANKにおける金属切削工作機械には、マシニングセンタ、旋盤、門形、五軸加工機を含み、研削盤、レーザー加工機、火炎切断機等の特殊工作機械は含まない。また上記の統計は、2025年上半期における金属切削工作機械の国内売上高を対象としており、輸出、アフターサービス、部品等の販売は含まない。

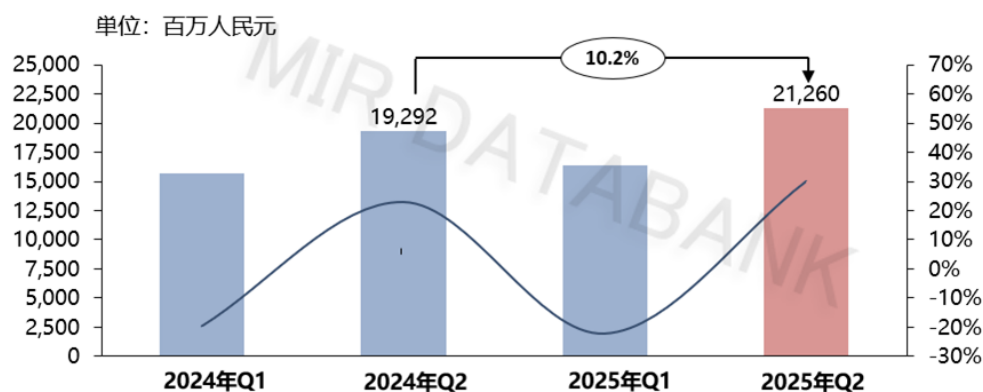
地域範囲：中国大陸地区を対象とし、香港、マカオ、台湾は含まない。

データ出典：MIR DATABANK

第一部 2025 年上半期における金属切削工作機械市場全体の回復 自動車およびエレクトロニクス産業が工作機械の成長を牽引

MIR DATABANKの最新データによると、2025年Q2における中国の金属切削工作機械市場規模は212.6億元に達し、前年同期比10.2%増、販売台数は9.4万台を超えた。2025年上半期において、中国の金属切削工作機械市場規模は375.9億元に達し、累計販売台数は17.1万台を超え、予想を上回る実績となった。

中国金属切削工作機械市場の全体規模と成長率 (2024Q1～2025年Q2)



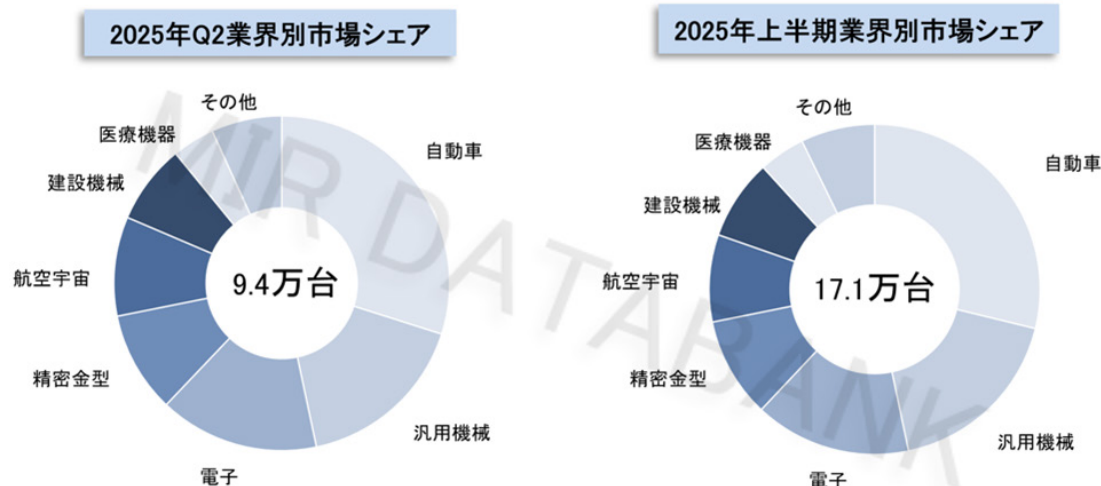
データ出典: MIR DATABANK

需要面から見ると、最終消費財市場の堅調な成長が需要回復を促し、顧客の購買意欲が顕著に高まっている。業界全体の信頼感回復が、成長軌道への回帰における重要な要素である。

供給面から見ると、業界全体は成長傾向にあるものの、需要が急増している機種においては、メーカー間の価格競争が依然として激しく、一部メーカーでは利益水準の著しい低下が見られる。

川下産業の動向を見ると、自動車および電子産業の成長が予想を上回り、工作機械市場の成長を牽引する主要な推進力となっている。

2025 年 Q2VSQ1-Q2 業界別市場シェア(売上ベース)



データ出典: MIR DATABANK

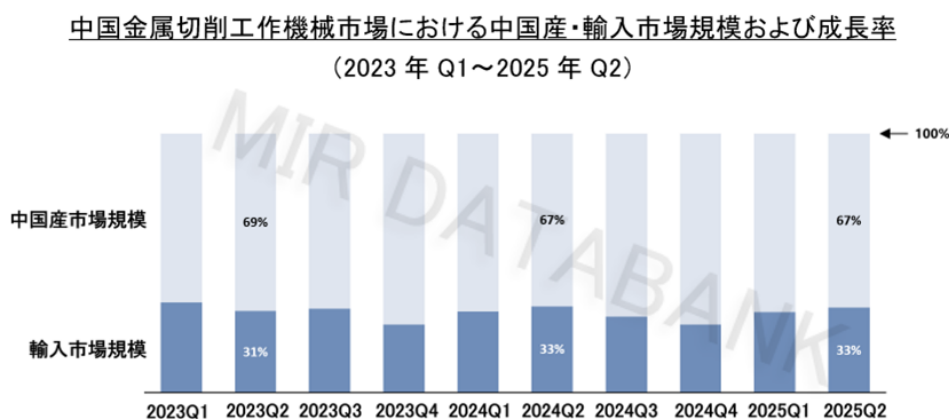
● **自動車業界**: 国の補助金政策に後押しされ、自動車業界全体の市場は顕著な成長を示しており、2025年上半期における自動車業界での CNC 工作機械の応用は前年同期比 14% を超える増加となった。しかしながら、現在の自動車業界は依然として一定の生産能力過剰のリスクに直面しており、加えて、昨今の業界における「過当競争」に対する国の一連の管理・是正措置が講じられたことから、今後自動車業界は生産能力調整の段階に入る可能性があり、工作機械メーカーの受注状況に影響を及ぼすことが懸念される。

● **電子業界**：2025 年上半期、電子業界は引き続き成長を維持し、成長率は8%を超えた。国内経済が下押し圧力を受ける厳しい状況下において、3C 電子の継続的な成長は、国の消費刺激策の有効性を示すとともに、家計支出における消費電子製品の優先順位が高まるという消費構造の変化を反映している。このような構造的転換は、国の補助金政策終了後も、電子産業に長期的な恩恵をもたらすと予想される。

● **航空宇宙**：2025 年上半期も成長を維持しているものの、その成長率はやや鈍化している。ただし、長期的には、当該産業の成長余地は依然として大きく、今後も産業発展の重要な推進力となるであろう。

第二部 主要メーカー回復も、競争激化で収益は厳しく

2025年Q2は、国産および輸入の金属切削工作機械市場はいずれも成長したが、国産設備の成長率は輸入設備の成長率を若干下回る結果となった。



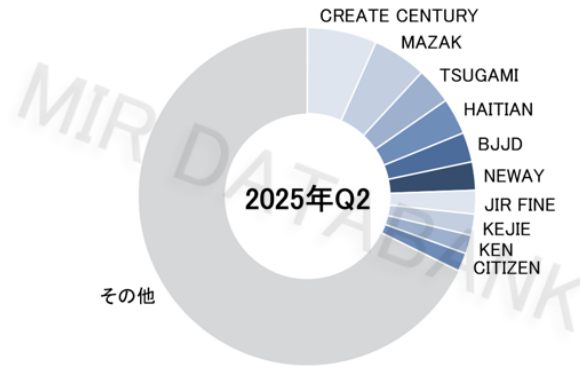
データ出典：MIR DATABANK

構造別に見ると、中国産メーカーの中ではタッピングセンタを主力とするメーカーの成長が最も顕著であり、次いで自動車産業への販売比率が高いメーカーが続いている。一方、川下産業の回復が不均衡である影響を受け、建設機械、汎用機械、医療等の分野に注力する関連メーカーの成長は緩慢です。同時に、自動車業界における輸入設備への依存度が高い影響から、2025年Q2には輸入設備のシェアが小幅に回復した。

全体として、中国産代替は今後も業界発展の主要な流れとなるであろう。近年、国内5軸設備メーカー数の急速な増加と製品性能の継続的な向上に伴い、すでに大半のアプリケーションにおいて外資系設備を代替する能力を備えており、各種専用機や特殊用途においても徐々に実績を上げている。長期的な政策による奨励と支援に加え、今後国産設備の割合は着実に上昇すると予想される。

2025年Q2の市場競争状況を見ると、中国内資企業のシェアは引き続き拡大している。

2025年Q2における中国金属切削工作機械市場シェア



データ出典：MIR DATABANK

2025年Q2は、政策の後押しを受けて業界の回復が鮮明となり、大手メーカーの多くが増収を実現した。中国内ブランドでは、CREATE CENTURY、HAITIAN、NEWAYなど多くのメーカーが前年同期比で成長を維持し、外資系ブランドの業績も著しく改善しており、全体として成長傾向にある。上位10社の中では、大前機床(KEN)の業績が傑出しており、BYDからの大型受注に牽引され、2025年上半期の売上高は大幅な増加を達成した。

会社略称	売上高				親会社株主に帰属する純利益			
	2024年 (億人民元)	2024年 前年比	2025年H1 (億人民元)	2025年H1 前年同期比	2024年 (億人民元)	2024年 前年比	2025年H1 (億人民元)	2025年H1 前年同期比
CREATE CENTURY	46.05	30.49%	24.41	18.44%	2.37	22.00%	2.33	47.38%
HAITIAN	33.52	0.85%	16.63	-0.92%	5.23	-14.19%	2.37	-19.27%
NEWAY	24.62	6.08%	12.78	9.99%	3.25	2.36%	1.30	-10.17%
RIFA	18.04	-13.40%	7.17	-31.41%	-6.75	25.20%	-2.21	-845.70%
JIR FINE	17.60	21.02%	12.14	50.36%	2.05	21.33%	1.79	56.43%
GUOSHENG	10.37	-6.04%	6.46	24.03%	1.28	-10.30%	0.82	32.00%
HEADMAN	7.65	15.31%	3.62	-3.09%	0.26	-12.27%	0.08	-26.39%
KEDE	6.05	33.88%	2.95	15.24%	1.30	27.37%	0.49	1.27%
HDCNC	3.34	19.66%	1.63	-6.06%	0.09	152.35%	0.13	140.53%

データ出典：MIR DATABANK

MIR DATABANKの最新発表データによると、2025年上半期における中国国産メーカーCREATE CENTURYの営業収入は24億4100万元に達し、前年同期比18.44%増と、3年連続で業界首位を維持している。JIR FINEの2025年上半期の売上高は前年同期比50.36%増と、業界トップの成長率を示した。

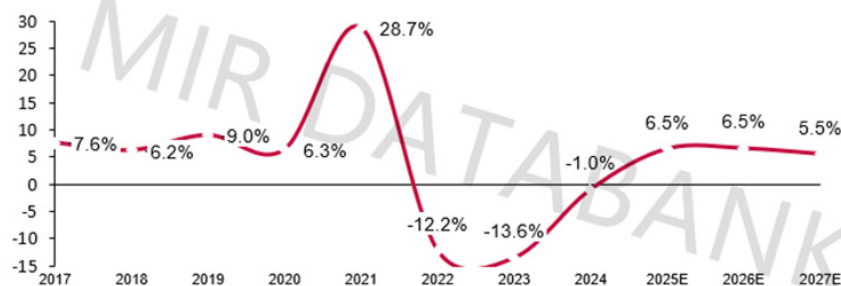
しかしながら、激しい業界競争による価格低下は業界全体の利益を圧迫し、徐々に外資系ブランドにも影響を与え始めている。この傾向が続けば、国内工作機械企業は製品品質や技術進歩の面で不利な立場に置かれ、各社の長期的な健全な発展を阻害する要因となりかねない。

第三部 今後の市場チャンス

2025年上半期、国家による最初の消費補助金は自動車および3C電子産業に対し、明確な刺激効果をもたらした。MIR DATABANKの推計によれば、新たな補助金政策の継続により、2025年の中国金属切削工作機械市場は再び成長軌道に乗り、通年で成長を維持する見込みである。

中国金属切削工作機械市場 成長率予測

(2025年～2027年)



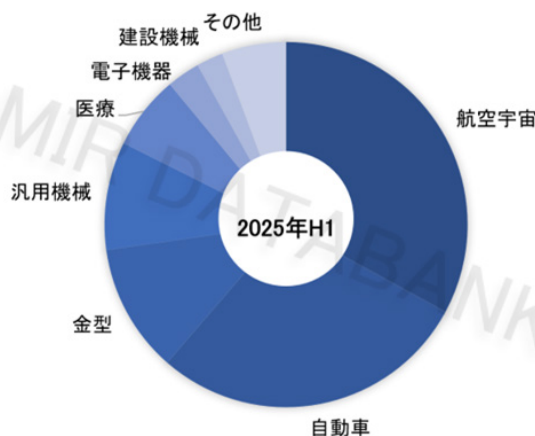
データ出典：MIR DATABANK

製品技術の発展トレンドとしては、五軸加工センタ、門型加工センタ、タッピングセンタの3つの設備市場が特に注目に値する。

① 5 軸マシニングセンタ

2025年上半期、中国における5軸マシニングセンタの販売台数は4,400台を超え、前年同期比19.7%増を記録した。

2025年上半期における5軸工作機械の業界別販売台数



データ出典：MIR DATABANK

川下産業の動向を見ると、自動車産業における5軸マシニングセンタの需要は長期的に増加傾向にある。

一方で、新エネルギー車の市場占有率には依然として成長の余地があり、その大きな市場規模が今後長期にわたり工作機械業界の成長を支え続けると考えられる。また一方では、新エネルギー車技術の急速な発展に伴い、部品加工に対する新たなニーズが業界内で高まっており、一体型ダイカスト(ギガキャスト)が徐々に業界の主流ソリューションとなりつつある。この加工方式では、部品に対し、より複雑な角度の穴や溝の加工が求められるため、業界における5軸設備の広範な応用が促進されている。

さらに、航空宇宙産業の発展も、国内メーカーにおける5軸技術の継続的な進歩を後押ししている。

航空宇宙分野は、ブレードやタービンといった複雑な角度の部品加工を必要とするため、常に5軸マシニングセンタの需要が最も高い業界の一つである。航空宇宙産業における5軸の応用は、加工角度への高度な要求に加え、特殊材料や高硬度材料の加工も伴うため、工作機械には、より高い性能と安定性が求められる。

② 門形マシニングセンタ

2025年上半期、門形マシニングセンタの販売台数は3,000台を超え、前年同期比約7%増となった。2025年下半期には、門形マシニングセンタは急速な成長期を迎えることが予想される。

中国内不動産市場の漸減傾向に加え、国によるインフラ投資の継続的な減少が重なり、建設機械業界は数四半期にわたり低迷を続けている。しかしながら、本年7月には新たな超大型水力発電施設の建設開始が予定されており、当該プロジェクトは建設機械需要の回復を効果的に牽引し、ひいては工作機械市場に新たな成長をもたらすものと見込まれる。

工作機械は「産業の母」と称されるように、建設機械メーカーに先んじて受注が増加する可能性も考えられる。同時に、当該プロジェクトは困難かつ長期にわたるため、今後建設機械業界に長期的な恩恵をもたらすと見込まれる。

③ タッピングセンタ

2025年上半期において、タッピングセンタの市場規模は全体で2万台を超え、前年同期比約9%増となった。中でも多頭タッピングセンタの伸びが著しく、2024年以降最も好調な機種の一つとなっている。

2025年Q2の状況から、一部中国内タッピングセンタメーカーは業績を大幅に伸ばしており、中国産設備が3C電子業界における応用能力と競争力を着実に高めていることが示唆される。価格面で外資系ブランドを上回るだけでなく、生産能力およびアプリケーション適合性においても中国産代替の能力を着実に備えつつある。

まとめ

2年間の市場変動と調整を経て、業界は安定発展の段階に入りつつある。中国産工作機械および関連サプライチェーンの自主管理が進み、技術革新が継続的に起こるとともに、政策的な支援も加わることで、中国の工作機械消費市場は強靱性と活力を発揮するものと期待される。また、国家政策の支援と誘導により、本土企業はミドル・ローエンド市場での主導的な地位を確立しただけでなく、ハイエンド市場への進出も徐々に進めている。今後、中国産ブランドが製品性能や技術力を向上させることで、より多くの顧客からの信頼を得て、競争力のあるコストパフォーマンスと現地での優位性を活かし、市場をさらに拡大することが期待される。

(MIR NEWS RELEASE 2025年9月19日)

◆海外業界動向：ラテンアメリカ

ブラジル

- 人工知能(AI) データセンターの需要が高まるにつれ、安定的で信頼性の高いエネルギーソリューションの必要性も高まっている。これを受けて、日立エナジーはサンパウロ州ピンダモニャンガバに1億7,500万ドル相当の変圧器工場を新設すると発表した。新工場は、地域の電力用変圧器生産能力を増強し、成長する技術環境の需要に対応し、より多くの再生可能エネルギー源を統合する。
- 日本の多国籍農業機械メーカーであるヤンマーは、サンパウロ州インダイアツバに5,600万ドル相当の新工場を建設する。ヤンマーの資金で賄われるこのプロジェクトは、3つのフェーズに分けて実施され、2030年に完成する予定。
- TSEA エネルギアは最近、ミナスジェライス州コンタジェンにある工場を1億4,000万ドルで拡張すると発表した。この拡張は2029年に完了する予定で、生産能力を倍増させ、グローバルプレゼンスを強化する。この工場は電力用変圧器を専門に製造し、高度な製造プロセス、高電圧試験室、そしてイノベーションと技術開発のための専用エリアを備えている。
- WEGは、今後3年間でブラジルにおける産業用および電動トラクションモーターの生産能力を拡大する意向を発表した。その第一歩として、サンタカタリーナ州ジャラグア・ド・スルに1億3,200万ドルを投資して電動トラクションモーターの新工場を建設する。
- ホース・ブラジルは、2023年に建設予定の1億レアル(1,885万ドル)を投じた高効率生産設備に加え、パラナ州の工場にも1億1,000万ドルを投資する。この新たな投資は、ホースの2023年から2028年までの5年間の投資サイクルの一環であり、総額は1億7,300万ドルに達する見込み。
- シボレーは、ブラジルの旧トロラー工場で電気自動車を組み立てる。このプロジェクトは、GMのブラジルにおける14億ドルの投資サイクルの一環。
- 鉱業会社ヴァーレは、パラ州カラジャスにおける140億ドル規模の事業拡張計画を発表する。カラジャス複合施設で進行中のプロジェクトには、処理能力5,000万トン、投資額7億5,500万ドル、2026年後半の稼働開始予定のコンパクト・クラッシングS11Dと、年間処理能力600万トンで来年後半の稼働開始予定のN3 - セラ・ノルテがある。同社はまた、投資額7億7,400万ドル、処理能力1,000万トンの北部システム2億4,000万トンがほぼ完成していると発表している。同社はまた、北部システムにおいてS11Cやセラ・ノルテN1/N2といった他のプロジェクトも評価中だが、関連する投資情報はまだ公表されていない。
- エンブラエル社製E195-E2型機を運航する米国初の航空会社であるアベロ航空は、約44億ドル相当の同型機を最大100機購入すると発表した。2027年上半期からアベロ航空に納入が予定されているこの機種は、エンブラエル社最大かつ最新鋭の民間ジェット機です。シングルクラスで146人の乗客を収容でき、航続距離は約5,500キロメートル。

メキシコ

- 2024年、自動車業界はメキシコに約240億ドルを投資した。これには、生産能力の増強、工場の拡張、新規事業の設立、インフラ整備などのプロジェクトが含まれる。メキシコへの投資上位国は米国、日本、ドイツ、中国で、投資誘致額上位5州はヌエボ・レオン州(21.4%)、プエブラ州(14.4%)、グアナファト州(13.9%)、コアウイラ州(13.4%)、メキシコ州(11.9%)。

- メキシコ産業連盟(INEGI)によると、メキシコの製造業輸出は7月に5.3%増加し、機械、特殊機械、電気電子機器などの主要セクターが牽引した。
- 日本の空調・換気・冷凍システムメーカーであるダイキンは、メキシコ国内の生産能力を統合し、3,500人の雇用を創出するため、サン・ルイス・ボトシに3億7,300万ドルを投じた新工場を建設すると発表した。
- ドイツの自動車メーカーであるキンピングは最近、トラスカラ州に5億4,000万ドルを投資し、5,000人の雇用を創出すると発表した。
- キルヒホフ・オートモーティブは、グアナファト州に6,000万ドルを投じた新工場を開設した。この工場は、溶接や電着塗装といった新工程に特化し、フロントエンドモジュール、衝突安全システム、リアバンパーを生産する。
- 米国の電気自動車ソリューションメーカーであるAmpureは、グアナファト州に400万ドル以上を投資して新生産ラインを建設した。
- メキシコの冷蔵食品製造・販売会社であるSigma Alimentosは、メキシコ州での生産能力を強化するため、1,800万ドルを投資すると発表した。
- 医薬品製造を専門とするSOMARは、メキシコ州にある工場の生産能力を1,100万ドル増強すると発表した。
- 台湾の電子機器メーカーであるQuanta Computerは、ヌエボレオン州での生産能力増強を計画しており、投資額は10億ドル以上と見込まれている。

(AMT ONLINE 2025年9月24日)

◆米国通商政策動向：トランプ政権、新半導体政策

トランプ政権は、企業に輸入と同等の米国生産のバランスを取ることを義務付けることで、米国の外国製半導体への依存を減らすことを目的とした新たな半導体政策を検討している。

- **主要提案：**テクノロジー企業は、国内生産と輸入の半導体比率を 1:1 に維持する必要がある。この比率を達成できない企業には関税が課される。
- **実施上の課題：**
 - 海外製半導体は安価であり、サプライチェーンは複雑である。
 - 複数の半導体を搭載した製品に対する関税額の決定は不明確である。
 - 多数の半導体を搭載したデバイスを輸入する Apple や Dell などの企業は、コンプライアンスの追跡が困難になる。
- **支援とインセンティブ：**米国での生産を約束する企業(TSMC、Micron、GlobalFoundries など)は、施設が完成する前にクレジットを取得できる可能性がある。この計画は、顧客に対する彼らの影響力を強化する可能性がある。
- **政治的背景：**トランプ大統領は、関税軽減を米国のテクノロジー投資と結び付けている。ハワード・ラトニック商務長官は、特に台湾が中国の脅威に対して脆弱であることを踏まえ、この政策は経済安全保障のために必要だと主張した。

- **業界の懸念**：2022 年 CHIPS 法に基づき既に数十億ドルが割り当てられているものの、顧客は依然として安価な輸入品を好んでいる。業界幹部は、iPhone のような複雑な製品を米国で完全に生産することは非現実的だと警告している。

- **今後の対応**：この政策は、半導体輸入が国家安全保障に与える影響に関する進行中の貿易調査と関連しており、調査後に新たな関税が課されると予想されている。

注：対象となる半導体の種類や免除手続きの運用方法など、この計画の詳細は未だ最終決定されていない。新たな情報が入り次第、最新情報をお知らせする。

(Global USA 2025年9月26日)

◆米国通商政策動向：BIS(米国商務省)、50%ルール概要と分析

1. 暫定最終規則の概要

BISは、輸出管理規則(EAR)を改正し、エンドユーザー規制の範囲を拡大した。

新たな「関連会社規則」は、エンティティリストおよび軍事エンドユーザー(MEU)リストの規制を、1社以上のリストに掲載されている事業体によって、直接的または間接的に、個別または合計で50%以上所有されている外国関連会社に適用する。

この規則は、OFACの特定の制裁プログラムに基づいて制裁を受けている当事者の関連会社にも適用され、BISの規制をOFACの長年にわたる50%所有慣行と整合させている。

2. 規則の主な特徴

2.1. 50%所有規則

- リストに掲載されている1社以上の事業体によって50%以上所有されている外国関連会社は、自動的に親会社と同じ規制の対象となる。
- これは、関連会社がエンティティリストまたはMEUリストに具体的に記載されているかどうかに関係なく適用される。

2.2. 最も制限的なルール

- 複数のリスト掲載企業が共同で関連会社の50%以上を所有している場合、各所有者の最も制限的なライセンス要件が適用される。

2.3. レッドフラッグ29(所有権の不明確さ)

- 輸出者が所有権の割合を特定できない場合、当該企業を制限対象として扱う必要がある。
- 輸出者は、手続きを進める前に、所有権を解決するか、BISライセンスを申請するか、ライセンス例外を特定する必要がある。

2.4. 米国子会社

- 関連会社ルールは外国企業にのみ適用される。
- リスト掲載企業の米国設立子会社は自動的に適用されるわけではないが、以下の事項を通じて間接的に影響を受ける可能性がある。
 - 外国親会社またはその関連会社との取引制限。
 - みなし輸出ルール(例：規制対象技術の外国人への移転)。
 - 銀行、サプライヤー、およびパートナーによるデューデリジェンスの強化。

3. 一時一般許可 (TGL)

3.1. 目的

TGLは、50%ルールに基づき新たに制限される非リスト外国関連会社との取引継続を可能にするため、60日間の移行期間を設けている。

3.2. 適用範囲

- 50%ルールの対象となる関連会社が関与する特定の輸出、再輸出、および移転(国内)を許可する。
- 適用対象：
 - カンントリーグループA:5およびA:6に所在する関連会社。
 - カンントリーグループE:1およびE:2以外の関連会社で、リスト上の当事者が50%以上所有していない米国またはA:5/A:6のパートナーとの適格な合併事業の一部である場合。

3.3. 制限

- TGLは、他のEAR制限(最終用途または仕向地に基づく禁止事項など)に優先するものではない。
- EARパート762に基づく記録保管要件が適用される。
- 公示後60日で失効します。企業はこの期間内にライセンス申請を提出する必要がある。

4. 免除および救済措置

1. TGL(60日) – A:5およびA:6加盟国の関連会社または適格な合併事業に対する一時的な救済措置。
2. 変更申請 – 関連会社は、§ 744.16(e) (エンティティリスト)または§ 744.21(b)(2) (MEUリスト)に基づく適用除外を申請できる。
3. ライセンス例外 – 限定的な例外が適用される場合がある(例: GOVライセンス例外、宇宙協力に関する§ 740.11)。
4. 適用除外条項 – 申請日時点で輸送中の貨物は、30日以内に完了すれば、従来の規則に従って処理できる。

5. 管轄区域別の実務上の影響

5.1. シンガポール

- 国グループ A:5.
- 上場企業が50%以上保有する関連会社は対象となるが、TGLは60日間取引を承認する。
- TGLの有効期限後は、完全な制限が適用される。

5.2. ドイツ

- 国グループ A:5.
- シンガポールと同じ扱い: 50%ルールの対象となり、60日間TGLの免除が適用される。
- 有効期限後は、EARの対象となるすべての品目について、関連会社へのライセンスが必要となる。

5.3. 日本

- 国グループ A:5.
- 50%の基準を満たす関連会社は対象となり、60日間TGLの免除が適用される。
- 有効期限後は、親会社のライセンス要件(例: 否認の推定)に従う制限が適用される。

6. 国グループの対象範囲

国グループ A:5(優遇ライセンス措置、TGL 対象国)：オーストラリア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、カナダ、クロアチア、チェコ共和国、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイスランド、アイルランド、イタリア、日本、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、マルタ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、シンガポール、スロバキア、スロベニア、韓国、スペイン、スウェーデン、スイス、トルコ、英国。

国グループ A:6(補足優遇グループ、TGL 対象国)：アルゼンチン、ブラジル、インド、イスラエル、南アフリカ、台湾、タイ。

国グループ E:1(TGL対象外、軍事用途向け)：(TGL対象外、最も厳しい規制)：キューバ、イラン、北朝鮮、シリア。

国グループ E:2(TGL対象外、軍事用途向け)：ベラルーシ、ロシア。

暫定最終規則は、エンティティリスト、MEUリスト、および特定のOFAC関連規制を、リストに掲載された当事者が50%以上所有する外国関連会社に適用することにより、米国の輸出規制の範囲を大幅に拡大する。米国子会社は直接対象とはならないが、シンガポール、ドイツ、日本などの管轄区域にある外国関連会社は、60日間のTGL移行期間を条件として対象となる。この期間後は、除外が認められない限り、すべての規制が完全に適用される。これらの管轄区域は、所有構造を直ちに評価し、コンプライアンス手順を更新し、必要に応じてライセンス申請の計画を立てるべきである。

この規則は2025年9月30日に発効し、TGLは60日間の移行期間となる。

(Global USA 2025年9月29日)

◆米国通商政策動向：日米貿易合意

米国と日本は、日本からの輸入品に対する米国の関税を15%に引き下げる貿易合意を締結した。これにより、関税は最大27.5%まで引き上げられる恐れがあった水準から緩和される。この合意の注目すべき特徴は、トランプ大統領が5,500億ドルの投資パッケージから資金を受け取るプロジェクトを自ら選定する点である。

トランプ大統領は9月4日、自動車、航空宇宙部品、医薬品、および特定の原材料を対象とするこの合意を実施する大統領令に署名した。鉄鋼やアルミニウムなど、センシティブなセクターへの関税は依然として高いままである。

投資コミットメント

この合意には、広範な投資要素が含まれている。日本政府は、半導体、造船、医薬品、エネルギーインフラといった米国産業を支援するため、株式、融資、保証からなる5,500億ドルのパッケージを約束した。

この投資パッケージの大部分は、JBICやNEXIといった日本政府支援機関を通じて調達される債務形態となる。株式による利益は、米国が約90%、日本が約10%というように、不均衡に分配される。

市場の反応

市場は即座に反応した。日本の自動車メーカーの株価は急騰し、日経平均株価は3%以上上昇し、米国の株価指数は過去最高値を更新した。

フィナンシャル・タイムズ紙によると、米国当局者は日本をこの合意の「銀行」と称賛したが、日本政府はプロジェクトが日本の経済的利益と合致する必要があることを強調した。ロイター通信によると、この枠組みの一部は依然として拘束力がなく、実施の詳細やスケジュールは未だ明らかにされていない。

プロジェクトに対する大統領の権限

今週署名された未公開の覚書において、トランプ大統領は、日本の5,500億ドル規模の米国投資パッケージの配分に関して異例の直接的な役割を担った。フィナンシャルタイムズの報道によると、プロジェクトは、ハワード・ラトニック商務長官が委員長を務める委員会が作成した最終候補リストから、大統領が自ら選定する。

この合意はまた、厳格な期限規定を課しており、日本は大統領が選定したプロジェクトに45日以内に資金を提供しなければならず、さもなければ関税が再導入される可能性がある。

外交的枠組み：「黒船」

この取り決めは、合意形成、予測可能性、柔軟なスケジュールを重視する日本の既存の交渉およびビジネス慣行からの大きな逸脱を示している。関税再導入の脅威にさらされながら、外国首脳に投資に関する一方的な裁量権を与えることは、構造化された枠組み、契約の明確化、そしてリスク回避を重視する日本の姿勢とは対照的であり、日本の伝統的なアプローチではなく、米国の影響力を反映している。

これに対し、これまでの日米貿易投資協定は、制度的メカニズム、段階的な実施、そして企業主導の投資フローを重視していた。これは、1980年代の協力的な二国間協定や過去20年間の市場主導型のFDI公約とは構造的に異なるものである。

交渉は困難を伴った。日経新聞によると、ワシントンの米輸入拡大要求により交渉は一時的に停滞し、予定されていた日本側交渉官の訪問がキャンセルされた。

この合意は関税圧力を軽減するものの、投資の範囲や国内情勢に関する疑問が残っており、実施が複雑化する可能性がある。

分野別規定

自動車産業

- これまで第232条に基づく通達に基づき25%を超える関税が課せられる恐れがあった日本製自動車およびその部品は、今後は標準化された15%の税率の対象となる。
- 日本は、米国の安全認証を受けた乗用車を追加試験なしで認めることに同意し、米国の日本自動車市場へのアクセスを容易にした。

航空宇宙産業

- 以前の通達に基づき課せられた日本製航空宇宙製品への関税は、無人機を除くWTO協定の対象となる民間航空機については撤廃される。
- 日本は、米国製の民間航空機および防衛装備品の購入を約束した。

鉄鋼、アルミニウム、工業用金属

- 15%の関税は広範囲に適用されるが、鉄鋼、アルミニウム、銅などの重要金属は引き続き国家安全保障上の措置の対象となる。
- この合意により、日本が合意を遵守していない場合、商務長官は関税率を調整する権限を有する。

医薬品および天然資源

- この大統領令により、米国で十分な量が生産されていないジェネリック医薬品、原材料、天然資源の日本からの輸出に対する関税が撤廃される。

(Global USA 2025年10月3日)

◆米国通商政策動向：Giant Manufacturing 社と強制労働

米国税関・国境警備局(CBP)は、サプライチェーンにおける強制労働の証拠を理由に、Giant Manufacturing社が台湾で製造した自転車、部品、アクセサリーに対し、輸出保留命令(WRO)を発令した。

合衆国法典第19編第1307条に基づき認可されたこのWROは、CBP職員に対し、ジャイアントブランドで販売されているか、他社向けに製造されているかにかかわらず、台湾で製造されたジャイアントの製品を差し押さえるよう指示するものである。この命令は、同社の中国またはベトナムの施設で製造された製品には適用されない。CBPによる今回のWRO発令は、中国の漁業会社と韓国の塩田に対する措置に続き、今年3回目となる。

CBPは、調査の結果、脆弱性の悪用、劣悪な労働条件と生活環境、債務による束縛、賃金の未払い、過度の残業など、国際労働機関(ILO)が示す複数の強制労働の兆候が確認されたと報告した。当局によると、これらの慣行により、ジャイアントは市場価格を下回る製品を生産することができ、米国企業に重大な競争上の不利益をもたらしていた。

これに対し、ジャイアントは、以前の労働者の権利侵害に関する報告を受け、外国人労働者の採用費用の負担や住宅環境の改善などを含む是正措置を実施したと述べた。同社は、具体的な行動を通じて労働者の権利を守り、透明性、公平性、持続可能な開発を確保するというコミットメントを改めて表明した。ジャイアントは、CBPに対しWRO（労働力検査命令）の取り消しを申請する意向を表明し、米国への出荷が遅延または検査を受ける可能性があることを認めた。

ジャイアントはさらに、台北証券取引所に対し、WROは台湾から米国への輸出にのみ適用され、連結売上高に4〜5%の潜在的な影響があると見積もっていると伝えた。前年、米国での売上高は、この命令の対象外である中国とベトナムからの出荷を含め、同社の総売上高の9%未満であった。

企業がCBPの調査結果に異議を申し立てることができなかった場合、WROは正式な「調査結果」に格上げされ、対象となる商品の押収と没収が認められる可能性がある。現在、CBPは53件のWROと9件の調査結果を執行している。

(Global USA 2025年10月3日)

◆米国通商政策動向：エンティティリスト、追加事業体

米国商務省産業安全保障局(BIS)は、輸出管理規則(EAR)を改正し、EAR § 744.11に基づくエンティティリストに29のエントリ(26の事業体と3つの住所を含む)を追加した。これらの追加は、中華人民共和国(19)、トルコ(9)、アラブ首長国連邦(1)の組織を対象としている。

これらの事業体は、米国の国家安全保障または外交政策上の利益に反する行為をしていると判断された。

EARの対象となるすべての品目には、現在、輸出許可が必要であり、申請は却下推定に基づいて審査される。

国別追加

中華人民共和国 (19 エントリ)

1. Goodview Global – イラン革命防衛隊コッズ部隊(IRGC-QF)のフロント企業に無人航空機(UAV)部品を供給する不正調達ネットワークの一部。
2. Arrow China Electoronics Trading Co., Ltd.
3. Arrow Electoronics (Hong Kong) Co., Ltd.
4. Beijing Kevins Technology Development Co., Ltd.
5. Beijing Plenary Technology Co., Ltd.
6. Beijing Rageflight Technology Co., Ltd.
7. Gansu Shuili Hosting Equipment Co., Ltd.
8. Jian Xin Yin Bo Electronic Equipment Co., Ltd.
9. Schmidt & Co., (HK) Ltd.
10. Shandong Xin Yin Bo IOT Technology Co., Ltd.
11. Shanghai Bitconn Electronics Co., Ltd.
12. Shanghai Langqing Electronic Technology Co.
13. Shanghai Sisheng Power Control Technology Co., Ltd.
14. Easy Fly Intelligent Technology Co., Ltd.
15. Feng Bao Electronic Information Technology (Shanghai) Co., Ltd.
16. Feng Bao Trading Hong Kong Ltd.
17. 住所 16 -14C Hung Shui Kiu Main Street, Yuen Long, Hong Kong
18. 住所17 : Rm 1605A, Ho King Commercial Center, Mong Kok, Kowloon, Hong Kong
19. 住所18 : Room 1605, Ho King Commercial Center, Mong Kok, Kowloon, Hong Kong

根拠

- これらの事業体の大半は、フーシ派やハマスなどのイラン代理勢力が使用する兵器化無人航空機システム(UAS/UAV)に搭載されている米国製電子部品の調達または支援を行っていた。
- これらの3つの住所は、イランのシラーズ・エレクトロニクス・インダストリーズ(SEI)への支援でOFACに指定されたエミリー・リウ氏の調達ネットワークと関連している。
- EARの対象となるすべての品目(CCLおよびEAR99の補足番号に記載されている品目を含む)には、許可が必要である。7からパート746まで。

トルコ (9 エントリー)

1. Atadoruk Havacilik Savunma Sanayi Ticaret Limited Sirketi
2. Business Metal Sanayi Ve Dis Ticaret Limited Sirketi
3. DBC Makina Sanayi Ve Ticaret A.S.
4. Ercetin Is Makinalari Yedek Parcalari Insaat Ve Dis Ticaret Limited Sirketi
5. PMR Teknik Makine Ticaret Limited Sirketi
6. UMS Ankara Kalibrayon Mühendislik Müsavirlik Mümessillik Sanayi Ve Ticaret Limited Sirketi
7. Yant Insat Gida Turizm Sanayi Dis Ticaret Limited Sirketi
8. Sisdoz Arima Ve Pompa Teknolojileri Sanayi Ticaret Anonim Sirketi
9. TGB Aviation

根拠

- これらの企業は、BIS エンティティリストやOFACの特別指定国民(SDN)リストに掲載されている団体など、米国原産の品目をイランに転用したり、航空機部品のイランへの積み替えに参加したりした。
- 数社は、OFAC指定のSDNであるイラン航空機製造産業(HESA)に関連している。
- 転用された品目には、ECCN 2B350に該当する物品が含まれていた。
- すべてのライセンス申請は、§ 744.11に基づき、拒否の推定に基づいて審査される。

アラブ首長国連邦 (1 件)

1. Royal Impact Trading L.L.C. – 米国の国家安全保障および外交政策上の利益に反して、ECCN 2B350品目を含む米国原産品をイランに転用したため、追加された。
- ライセンス要件：EARの対象となるすべての品目。
 - ライセンス審査方針：拒否の推定。

追加規定

- 保留事項：2025年10月8日時点で既に輸送中の貨物は、2025年11月7日までに完了すれば、以前の許可資格に基づいて処理を進めることができる。
- 法的根拠：2018年輸出管理改革法(ECRA) (50 U.S.C. 4801-4852)に基づき発布。
- 規則制定上の留意点：大統領令12866号に基づき重要でない貨物に分類。国家安全保障上の配慮により、パブリックコメントおよび規制柔軟性法(Regulatory Flexibility Act)の要件の対象外。

ライセンスの影響概要

- ライセンス要件：EARの対象となるすべての品目。
- ライセンス審査方針：却下推定。
- ライセンス例外：リストに掲載されている事業体には原則として適用されない。
- 50%ルール：リストに掲載されている事業体が1社以上、50%以上の株式を保有する外国事業体にも適用される。
- 輸出者は、取引前に所有権に関する懸念事項を解決するか、ライセンスを取得する必要がある。

詳 細

- 連絡先：BISエンドユーザー審査委員会(ERC)委員長 – ERC@bis.doc.gov |(202) 482-5991
- 発効日：2025年10月8日
- 公布日：2025年10月9日
- 連邦官報への引用：90 FR [ページ番号を挿入](2025)
- 署名者：ジュリア・A・ヘルソンスキー 戦略貿易担当次官補

総 計

- エンティティリストに29項目が追加された(中国 19、トルコ 9、UAE 1)。
- EAR対象品目の輸出、再輸出、または国内移転は、いずれも許可拒否の対象となる。

(Global USA 2025年10月8日)

◆米国通商政策動向：最高裁による IEEPA 関税の審査と米国貿易政策への影響

米国最高裁判所(SCOTUS)は、2025年11月5日に口頭弁論を行い、国際緊急経済権限法(IEEPA)に基づく大統領の緊急権限が関税賦課にまで及ぶかどうかを審理する。この判決の結果は、米国の貿易政策と関税収入だけでなく、世界の海運、コンテナ貿易、そして国際貿易における行政府と議会の権限のより広範なバランスにも大きな影響を及ぼす。

法的背景と時期

1977年に制定されたIEEPAは、国家緊急事態の際に大統領に財産の輸出入を規制する権限を与えている。この法律は関税について明示的に言及していない。トランプ大統領はIEEPAに基づき、世界的な「相互」関税やフェンタニル関連輸出品への対象を絞った関税など、幅広い関税を課してきた。

最高裁は11月5日の審理後、速やかに判決を下すと予想されており、専門家は11月下旬または12月上旬までに判決が下されると予想している。アナリストの間で判決結果の見通しは分かれており、僅差の「コイントス」と見るアナリストもいれば、最高裁がIEEPAに基づく関税を破棄する確率を70%程度と見積もるアナリストもいる。経済的に極めて重要な事項における行政府の権限の濫用を制限する主要問題原則は、最高裁の判断において極めて重要な役割を果たすと予想される。

大統領権限への影響と可能性

最高裁がIEEPAに基づく関税の適用を破棄した場合、米国の企業と消費者は直ちに救済を受け、関税の還付によって2026年の輸入需要が押し上げられる可能性がある。しかし、還付手続きは複雑で政治的にデリケートな問題となる可能性があり、企業は支払いの回収のために訴訟を起こす必要が生じる可能性がある。

最高裁がトランプ大統領のIEEPA解釈を支持した場合、大統領の権限は物品のみならず、資本、サービス、投資フローにまで大幅に拡大される可能性がある。そうなれば、大統領は資本規制の導入、外国サービスへの関税賦課、海外投資の制限、そして米国企業の国際収入への課税といった、議会の憲法上の課税権限を迂回する権限を行使できるようになる。こうした権限拡大は、世界の貿易フロー、海運需要、そして金融市場に深刻な影響を及ぼす。

第 232 条関税と国家安全保障上の正当性

IEEPAの判決にかかわらず、他の関税権限は依然として利用可能である。トランプ大統領は、1962年通商拡大法第232条に大きく依拠してきた。この条項は、輸入品が国家安全保障を脅かすとみなされる場合に関税または割当制を認めている。

- 現在、第232条に基づく関税は、鉄鋼、アルミニウム、派生製品、自動車、自動車部品、銅に適用され、税率は25%から50%。
- 進行中の調査(合計12件)は、銅、木材、医薬品、半導体、重要鉱物、トラック、航空機、ポリシリコン、ドローン、風力タービン、個人用保護具、ロボット工学など、幅広い製品を対象としている。
- プロセス：商務省は調査(270日間)を実施し、パブリックコメント期間を設け、大統領に報告書を提出する。報告書提出後、大統領は90日以内に行動を起こし、布告を發布し、救済措置を講じる。除外手続きと対象品目の追加手続きの両方において、利害関係者は関税対象から製品を削除または追加するよう請願することができる。

最近の第232条の拡大には、布張り家具(2025年10月から25%、2026年1月に30%に引き上げ)とキッチンキャビネット(2025年10月から25%、2026年1月に50%に引き上げ)への関税が含まれる。木材由来製品の輸入による国家安全保障上のリスクを理由に課されたこれらの措置は、米国のコンテナ輸入のうち最大のカテゴリーに直接影響を与え、アジアと米国間の輸送量の約10%を占めている。

その他の大統領の関税権限

第232条とIEEPAに加え、大統領は1974年通商法およびそれ以前の法令に基づき、重要な委任権限を保持している。

- 第122条(1974年通商法)：国際収支赤字に対処するため、150日間、最大15%の普遍的関税を認めており、議会の承認を得た場合にのみ延長可能です。1977年にカーター大統領によって一度適用された。
- 第201条(1974年通商法)：米国国際貿易委員会(ITC)が輸入によって国内産業が深刻な損害を受けていると判断した場合、関税を課すことを許可しています。トランプ大統領は2018年に洗濯機とソーラーパネルについてこの条項を適用した。洗濯機への関税はバイデン大統領の下で失効したが、太陽光発電への関税は2026年まで有効である。
- 第301条(1974年通商法)：不公正な貿易慣行を標的とした関税を認可するものであり、2018年には中国からの輸入品に対して広く適用された。これらの措置には失効条項はない。
- 第338条(1930年スムート・ホーリー関税法)：貿易相手国による差別行為に対して最大50%の関税を認可するものである。ただし、この規定は現代の法律では未だ適用されていない。

財政および貿易への影響

2025年9月7日までに、関税は米国政府に1,450億ドルの歳入をもたらした。

- IEEPA関税：55%
- 第301条関税：23%
- 第232条関税：22%
- 第201条関税：残り

IEEPA関税が無効とされた場合、還付手続きにより輸入業者に数百億ドルが還付され、追加購入が促進され、コンテナ輸送量の増加につながる可能性がある。しかし、従来の関税メカニズムへの移行は手続きの期間を延長し、企業が輸入を前倒しする機会を増やすことになる。

議会による監視と憲法上のバランス

今回の最高裁判所の判決は、米国の貿易統治における不均衡を浮き彫りにしている。第二次世界大戦以降、議会は広範な法定委任を通じて、徐々に行政府に権限を委譲してきた。第232条やIEEPAといった法律は、「国家安全保障上の脅威」や「重大な損害」といった用語の明確な定義を欠いており、大統領に広範な裁量権が委ねられている。

IEEPAに基づく関税に反対する判決が出れば、一時的に大統領の権限は制限されるものの、他の法律に基づく大統領の裁量権は失われない。逆に、トランプ大統領に有利な判決が出れば、貿易、サービス、資本を規制するほぼ無制限の権限が行政府に付与され、米国通商法が根本的に変わる可能性がある。

議会による監督権限を再び確立するには、立法府による明確化と、関税と課税の権限を議会に付与する憲法第1条の規定への回帰が必要になる。

IEEPAに基づく関税に関する最高裁判所の判決は、当面の関税政策だけでなく、米国の貿易統治における行政府と立法府の将来の権力バランスにも影響を与えるであろう。この判決は、国際海運、世界の貿易フロー、そして金融市場に波紋を広げる。IEEPA関税の無効化、還付手続きの複雑化、あるいは第232条やその他の権限のより広範な適用の促進など、この訴訟は大統領の貿易権限の範囲を見直し、米国の関税政策に対する議会の統制を回復することの緊急性を強調している。

(Global USA 2025年10月3日)

◆米国通商政策動向：ロボットおよび産業機械の輸入に対する第 232 条の影響

2025年9月2日、商務長官は、1962年通商拡大法(合衆国法典第19編第1862条)第232条に基づき、ロボットおよび産業機械の輸入が米国の国家安全保障に及ぼす潜在的な影響を評価するための調査を開始した。

この調査は、産業安全保障局(BIS)の戦略産業・経済安全保障局によって実施されている。

対象範囲は、ロボット工学およびプログラマブル機械システム全般にわたり、以下を含む。

- CNCマシニングセンタ、フライス盤、旋盤
- 研削盤、バリ取り盤、スタンピング盤、プレス機
- 溶接、切断、ハンドリング用の自動工具交換装置、治具、工作機械
- 特殊金属加工装置(オートクレーブ、工業用オーブン、放電加工機、レーザー／ウォーターカッティングツール)
- 金属仕上げ・処理機械

除外：無人航空機システム(別途、第232条に基づく調査対象)

2025-18749_ロボット工学

国防総省は、連邦規則集(15 CFR)第705.4条に列挙されている要因に関する情報に特に関心を持っている。これには以下が含まれる。

1. ロボット工学および機械に対する米国の需要の現状、予測、および最適な状況。
2. 国内生産能力および需要への対応能力。
3. 外国のサプライチェーンおよび主要輸出国への依存度。
4. 輸入集中のリスクと脆弱性。
5. 外国の補助金と略奪的貿易慣行の影響。
6. 人為的に抑制された価格と海外での過剰生産の影響。
7. 外国による輸出制限または供給の兵器化のリスク。
8. 輸入依存度を低減するための国内生産能力拡大の実現可能性。
9. 既存の貿易政策の有効性と関税・割当の必要性の可能性。
10. 米国製造業の雇用への影響。
11. サプライチェーンに対する外国による支配または搾取のリスク。
12. 外国製ロボットまたは部品の兵器化の可能性。
13. 安全保障上重要な物品の生産におけるロボットの将来的な役割。
14. その他の関連する国家安全保障上の考慮事項

(Global USA 2025 年10月3日)

3. 工作機械関連企業動向

◆ウィア工作機械、ハンファロボティクスと協同ロボット自動化ソリューション

韓国の工作機械メーカー ウィア工作機械は11日、協同ロボットメーカー ハンファロボティクスと協同ロボット活用工作機械自動化ソリューション分野戦略的協力のための業務協約(MOU)を締結したと15日明らかにした。

両社は今回の協約で工作機械と協同ロボット技術の融合を通じて持続可能な製造競争力強化と自動化ソリューション高度化を達成するという目標だ。

両社は22日、ドイツのハノーバーで開かれる世界最高の金属加工・生産技術展示会である「EMO 2025」で共同開発した協同ロボット自動化ソリューション2種を世界市場に初めて公開する予定だ。

ウィア工作機械は過去、現代自動車グループの生産ライン自動化を構成した経験に協同ロボット基盤技術を融合させ、経済的・実用的な自動化システムを開発し、スマートファクトリーへの転換に乗り出していると明らかにした。

ウィア工作機械の関係者は「今回の協力は国内企業間の純粋国産技術の結合という点で意味が大きく、グローバル顧客に一層進歩した製造ソリューションを提供する契機になるだろう」と話した。

(聯合ニュース 9月15日付)

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250914014000003?input=1195m>

◆シーメンスと TRUMPF、デジタル製造と AI 対応の加速で提携

この提携により、シーメンスのデジタル専門知識とXceleratorポートフォリオが、TRUMPFの製造およびソフトウェアの卓越性と融合する。この協業は、オープンで相互運用可能なインターフェースを通じて、現代の製造業における重要なシステム統合の課題に対処する。仮想開発と標準化されたインターフェースをサポートすることで、市場投入までの時間を短縮し、顧客の業務効率を大幅に向上させる。

テクノロジー企業シーメンスと、大手工作機械・レーザーメーカーのTRUMPFは、高度なデジタル製造ソリューションを活用することで産業生産の向上を目指す提携を発表した。この提携により、シーメンスのXceleratorポートフォリオと、TRUMPFの定評ある機械製造およびソフトウェアの専門知識が融合される。

この提携は、現代の製造業における重要な課題、すなわち、これまで生産効率とイノベーションを阻害してきた情報技術(IT)システムと運用技術(OT)システムの断絶に対処するものである。シーメンスのXceleratorポートフォリオとTRUMPFの製造における卓越性を活用することで、このギャップを埋める包括的なソリューションの提供を目指す。両社は、モーション制御アプリケーションにおける人工知能(AI)対応の向上を支援する、オープンで相互運用可能なITインターフェースの開発に取り組んでいる。

「工場における真の変革は、現場の機械が共通のデジタルバックボーンを介して接続されたときに始まる。これにより、データがシームレスに流れ、意思決定が迅速化され、生産が変化する状況に対応できるようになる」と、シーメンスAGの取締役兼シーメンス・デジタル・インダストリーズCEOのセドリック・ナイケ氏は述べている。「TRUMPFとの協業により、私たちはこの接続を容易に実現する。ITとOTのギャップを埋めることで、メーカーはより迅速に行動し、リアルタイムに適応し、AI時代への準備を整えることができます。ヨーロッパの2大リーダーが先導していることを誇りに思う。」

このパートナーシップは、シーメンスとTRUMPFの開発チーム間の定期的な情報交換に基づいており、産業界の最も差し迫った課題を解決するためには、活気あるエコシステムの重要性を強調しています。

(SIEMENS Press Release 2025年9月)

◆トルンプ、積層造形事業をレンバツハ・エクイティ・オポチュニティーズに売却

ドイツ・ディッツィンゲンに本社を置くトルンプは、レーザービーム粉末床溶融結合(PBF-LB)金属積層造形事業をレンバツハ・エクイティ・オポチュニティーズ(LEO) IIIファンドに売却することで合意したことを発表した。この売却は、トルンプの産業コア事業への戦略的注力の一環である。

「Trumpf」および「TruPrint」ブランドは、移行期間中も引き続き使用される。取引完了後、新しい社名と独立したブランドアイデンティティが段階的に導入される。

新グループは、トルンプのAM事業の現在の開発・生産拠点であるイタリアのスキオを拠点として事業を展開する。この取引の一環として、スキオ拠点の全従業員に加え、ドイツのディッツィンゲンと米国のプリマスでAM事業に配属されている従業員も異動となる。

「トルンプのような家族経営のハイテク企業から信頼を得て、競争の激しいM&Aプロセスのパートナーに選ばれたことを大変誇りに思う」と、DUBAGグループの取締役であるセバスチャン・スターター氏は述べている。「スキオ、ディッツィンゲン、そしてプリマスの経営陣と従業員の皆様と協力できることを楽しみにしている。共に、金属3Dプリンティング分野におけるリーディングカンパニーとして革新的なソリューションプロバイダーの確立を目指す。」

カーブアウトの一環として、社内組織とプロセスを簡素化し、世界中の顧客ニーズへの対応を強化する。

トルンプのアディティブマニュファクチャリング担当マネージングディレクターであるマティアス・ヒンメルスバッハ氏は、「DUBAGグループの助言を受けたLEO IIIファンドを、当社のアディティブマニュファクチャリング事業の新たなオーナーとして迎え入れることを嬉しく思う。DUBAGグループとの提携により、製品とコンサルティングポートフォリオを重点的に開発し、成長機会を活用し、持続可能な未来へと事業を導くことができるパートナーを得ることができた。」と述べた。

取引の完了には、関係当局の承認および契約で合意されたすべての条件の履行が条件となる。

((Metalworking News 2025年9月30日))

◆DMG MORI USA テクノロジーセンター、中西部地域におけるサポートを拡大

DMG MORI USAは、オハイオ州メディナに最先端テクノロジーセンター、DMG MORIクリーブランドの開設を発表した。この新施設は、ケンタッキー州、オハイオ州、ウェストバージニア州西部、ペンシルベニア州西部、ニューヨーク州西部を含む中西部地域をターゲットとしている。これらの地域は、医療、航空、宇宙、ハイテク製造業など、経済成長が著しく、活発な産業が集まる地域として知られている。

メディナ・テクノロジーセンターでは、アプリケーションエンジニア、営業担当者、サービスエンジニアなど、約60名の熟練した専門スタッフが、高品質な顧客サポートとソリューションの提供に注力している。施設内には、最新の製造技術を展示する290平方メートルのショールームと、顧客ニーズに合わせた包括的かつ統合的なサービスを提供するために設計された110平方メートルのターンキーソリューションエリアがある。

DMG MORIクリーブランドでは、販売とサービスに加え、高度なCNC加工技術、デジタル製造イノベーション、DMG MORI独自のテクノロジーサイクルに関する専門トレーニングプログラムも提供しており、人材育成と技術革新への当社の取り組みを際立たせている。

DMG MORI USAは、開所を記念し、2025年10月21日～22日に、同社が全米で開催するNational Tech Days USAと併せて、現地イベントを開催する。参加者はライブデモンストレーションを体験し、製造技術における最新のイノベーションに触れることができる。

(Modern Machine Shop 2025年9月29日)

◆ Kitamura Machinery、ブラジルでのサポート強化に向け SAF Maquinas 社と提携

Kitamura Machineryは、ブラジル・ピニャイスに拠点を置くSAF Maquinas社をブラジル市場における独占販売代理店に選定したことを発表した。

この提携により、キタムラはブラジルの様々な業種の製造業者に対し、現地に密着した販売、サービス、アプリケーションサポートの提供能力を向上させることが期待される。SAFマキナス社は、小型、高速、高精度、そして自動化対応プラットフォームを特徴とするMedcenter5axを含む全製品ラインを販売する。

ブラジルはKitamura Machineryにとって重要な市場であり、Kitamura Machinery of USA Inc.の社長であるテッド・アサノ氏によると、この提携により、お客様は地域に密着した知識と実践的なサポートを活用し、キタムラの技術に直接アクセスできるようになる。SAF Maquinas社はキタムラの価値観を共有し、ブランドを効果的に紹介できる深い技術力を有している。

SAF Maquinas社のチームは、キタムラマシニングセンターの販売およびアフターサービス全般、技術コンサルティング、アプリケーションエンジニアリング、トレーニングなどを提供する。

(Modern Machine Shop 2025年10月1日)

◆ Mikron Automation Boudry、敷地拡張工事の上棟式を挙

Mikron Automation Boudryは、地元当局、ヌーシャテル経済サービス、プロジェクト管理会社であるBat-Mann、そしてMikron Managementの出席のもと、敷地拡張工事「BoudryNext」の上棟式を挙

行した。この節目は、建物の水密化が完了したことを示し、建設が予定通りに進んでいることを裏付けている。

式典で挨拶に立ったマチュー・オーバール氏(ヌーシャテル経済サービス局長)、パスカル・シャピュイソド氏(ヌーシャテル市長)、パトリック・サヴォワ氏(Bat-Mann社取締役)、そしてロレンツ・ブリ氏(ミクロン・オートメーション・ブドリー社ゼネラルマネージャー)は、すべてのパートナーとの素晴らしい連携、プロジェクトがもたらすイノベーション、そして地域にもたらす価値を称賛しました。また、この野心的なプロジェクトを驚異的なペースで推進している作業員、職人、そしてエンジニアのチームに感謝の意を表した。

建設開始以来、重要なマイルストーンが達成され、増築された生産棟の下に将来の駐車場となる地下2階が完成した。その隣では、金属構造と屋根の骨組みが完成し、窓が設置され、将来のスマートオフィスとテクニカルセンターの姿が見える。

増築された顧客部品保管庫は、トレーサビリティと機密性の最高基準を満たすように設計されており、お客様の信頼と責任を絶対的に遵守している。

イノベーションと持続可能性へのコミットメントに基づき、Mikron AutomationはEPFLが開発した環境に優しいコンクリートを採用し、エネルギー消費量を40%、CO2排出量を20%削減した。

上棟式に続いて行われた懇親会では、すべてのパートナーと建設チームの献身的な仕事ぶりと模範的な仕事ぶりに感謝の意を表す機会となった。間もなく新しいワークスペースとコラボレーションエリアが設置される拡張された敷地は、お客様をサポートし、未来への準備を進める上で重要な一歩となった。

プロジェクト概要 – BoudryNext :

この拡張により、2026年半ばまでに生産エリアが6,200m²増加し、敷地面積は合計22,000m²となる。

追加生産ホール(ファインチューンホール) : 3,600m²

スマートオフィス : 900m²

テクニカルセンター、トレーニングセンター、ショールーム : 900m²

顧客部品保管エリア : 1,900ユーロパレット対応

主なマイルストーン :

追加生産ホール : 2025年末

スマートオフィス拡張 : 2026年第2四半期

プロジェクト完了 : 2026年第3四半期

総投資額 : 3,000万スイスフラン

BoudryNextは、Mikron Automationのイノベーション、持続可能性、そして顧客重視の卓越性へのコミットメントを体現するものであり、同社の継続的な成長と成功の基盤を築く。

(Mikron Press Release 2025年9月24日)

4. 展示会情報

◆ 2025 年中国国際工業博覧会

中国国際工業博覧会(略称「中国工博会」、CIIF)は、中国のみならずアジア太平洋地域においても最大級の工業展示会である。第25回となる今回は、9月23日に上海で開幕し、世界500強企業や業界トップ企業約300社を含む、3,000社以上が出展。過去最大の規模となった。

1. 工業自動化展：AI はもはや遠い存在ではない

今回の工業自動化展(IAS)における最も大きな特徴は、単なる「機械展示」ではなくなった点である。AIはすでに生産、制御、運用保守といった全プロセスに組み込まれ、展示内容も「感知・思考・協調」が可能なインテリジェントシステムへと進化しており、工業分野におけるAIの実用化が本格的に進んでいることを示している。

① 世界の主要産業企業は AI を戦略の中心に据え、未来工場の方向性を提示

- シーメンス(Siemens)は、20種類近いAI製品およびソリューションを発表した。中でも注目は、生成AIを活用した産業アシスタント「Industrial Copilot」である。設計段階ではNX CADと連携してイノベーションを加速し、生産段階では、CASMT(中科摩通)と共同開発した新エネ車EMBインテリジェント組立設備(中国初の試行)が、自動化プログラムの開発を支援し、効率向上と損失削減に貢献する。また、運用段階では設備診断機能を提供し、リスクを未然に防ぐ。さらに、買収後中国初公開となるAltair RapidMiner AIプラットフォームも登場し、AIによるデータ障壁の打破と、インテリジェントな意思決定の推進に対する強い意志を示した。
- シュナイダーエレクトリック(Schneider Electric)は、「ソフトウェア定義オートメーション(SDA)」と「産業の持続可能性」という2つの側面から、AIを用いた画像認識、予測分析、プロセス最適化、エネルギー効率管理を紹介。オープンオートメーションプラットフォームを通じて、現地のパートナーと連携し、AIをより多くの産業シーンに組み込み、産業の効率的かつ持続可能な発展を推進する。
- デルタ電子(台達)は「AIによる革新とGIによる持続可能性」をテーマに、AIとグリーンインテリジェント製造を融合させ、AIデジタルファクトリー、AIデータセンターなど、4つのシーンを展示。AIデジタルファクトリーでは、デジタルツイン技術と産業用ロボットを組み合わせ、物流・生産・設備管理の完全なデジタル化を実現。また、AI演算能力の消費電力問題に対し、PUE≤1.1の液冷ソリューションを展示し、グリーンエネルギーとAIの共存を打ち出した。

② AI はコントローラー、エッジコンピューティングユニットから HMI まで、工業自動化のあらゆる領域に浸透

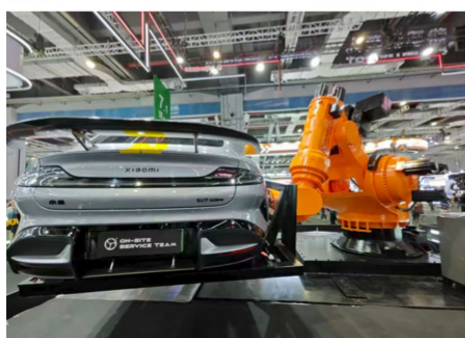
- ヘキサゴン(HEXAGON)：AIと半導体製造・基幹産業用ソフトウェアを組み合わせたソリューションのほか、人型ロボットの精密部品測定や無線3Dスキャンなどの革新的なアプリケーションを展示した。
- HOLLYSYS (和利時)：XMagitalインテリジェントシステムを発表。ユーザーが生産管理、計画スケジューリングなどのアプリケーションを必要に応じて柔軟に構成でき、従来のシステムによる制約を打破し、企業が特定の協力関係から脱却することを支援する。

- フェニックス・コンタクト(Phoenix Contact)：AI統合制御ソリューションを展示。Virtual PLCnext ControlオープンソフトウェアプラットフォームとAI技術を融合し、インテリジェントな制御を実現する。コンテナ型デプロイやAIアルゴリズムのシームレスな統合にも対応している。
- ベックホフ(BECKHOFF)：AI技術を統合したTwinCAT CoAgentインテリジェントエージェントを展示。PLCプログラミング、HMI設計、ナレッジ管理を効率化し、開発エンジニアの作業を大幅に支援する。
- HUALONG (華龍訊達)：「木星」産業用ロボットデジタルシミュレーションプラットフォームを展示。ゼロコードプログラミングを基盤に、自社開発のPLC、産業用HarmonyOS (鸿蒙)、Huaweiクラウド小規模AIモデルを融合し、クラウド・エッジ・エンド一体型シミュレーションシステムを構築、ロボットアプリケーションの導入ハードルを下げた。
- FLEXEM (繁易)：FE6300シリーズHMIを展示。AIによる質疑応答、コード生成、多言語翻訳機能を統合し、スマート工場におけるより高度なHMIを実現した。

③ 予知保全とエネルギー効率管理が、AIの実用化において特に注目される分野

- フェスト(Festo)はAIソフト「AX」で生産データをリアルタイム分析することで、設備の故障予兆、製品品質評価、エネルギー消費量の予測を実現する。これにより、ダウンタイムを25%、不良品を20%、エネルギーや流体の漏れを65%削減することが可能。
- シーメンス(Siemens)は「Industrial Copilot」とSiePA予知分析システムを連携させ、保守戦略の最適化と、故障予知能力の向上を図る。
- MatriBOX (矩控新辰)のソリューションは、予知保全の診断精度を99.7%まで向上させ、運用保守を事後対応から予防へと転換させる。

2. ロボット展：より高度な知能、より優れた柔軟性、より深化する人との協調



① 過当競争は沈静化、高付加価値なイノベーションが進展

- ESTUN (埃斯頓)は、重荷重・防爆ロボットを初公開。完全自社開発による多機ロボット協調ソリューションを展示。重荷重ロボットはデュアルモーター同期制御などの技術を駆使してハイエンド分野に対応する。
- EHUAYAN ROBOTICS (華沿ロボット) (大族グループ傘下)は、60kgの可搬重量を持つ協働ロボットを発表。組み込みが容易で、設置要件も低いことが特徴。今後はさらなる小型化を目指す。
- CHAIFU(柴孚ロボット)は、世界初のロボット腕部荷重5000kg以上の重荷重ロボットを展示。超重量搬送などの極限的なシナリオに対応可能。

② 具身知能(エンボディド AI)を備えた産業用ロボットが次世代の主役に

- DOBOT (越疆ロボット)は、「スーパーファクトリー」プラットフォームを展示した。「工場インテリジェントハブ」を中核として、人型ロボットによる精密操作、車輪型ロボットによる運搬、多脚ロボットによる巡回、そして協働ロボットアームによる高精度作業を通じて、生産の柔軟性を高めることを目指している。
- JAKA(節卡ロボット)は、「JAKA EVO工業具身知能プラットフォーム」を初公開した。AI大規模モデル、ビジョン、制御システムを融合し、データ処理からモデル展開までをカバー、ロボットに「身体・手・目・脳」の協調的な能力を持たせた。
- HITBOT (慧灵科技)は「HITBOT OS」を初展示し、「大脳+小脳」構造によって「認知-実行」の閉ループを実現した。「大脳」は意味理解・戦略生成し、「小脳」はハードウェアの動作を高精度に制御することで、工業生産を「人がロボットに適応する」から「ロボットが人に奉仕する」へと転換を促す。

③ 外資系ブランドは、中国市場へのローカライズを加速

- エプソン(EPSON)は、中国市場向けにカスタマイズされた初のLA-Aシリーズロボット(LA3、LA6)を発表した。これは、ローカライズ戦略における重要なマイルストーンとなる。新製品は、軽量・コンパクト・高剛性で、コア性能を高めながらコストパフォーマンスを向上させている。高品質な部品とRC800Lコントローラによって精度と速度の安定性を確保し、3C、リチウム電池、自動車部品などの業界に適応、顧客のビジネス価値向上に貢献する。

(MIR NEWS RELEASE 2025年10月3日)

◆ EMO Hannover 2025、AI と自動化を推進

2025年9月22日～26日までの5日間、世界の金属加工業界が一堂に会する、ドイツ・ハノーバーは世界有数の生産技術見本市EMO Hannover2025の会場となった。世界中から8万人もの業界関係者が来場し、展示会場は業界の競争力向上に向けた重要な革新的刺激となった。中でも、生産効率の向上を牽引する要素として、再び産業プロセスに浸透しつつある自動化と人工知能(AI)が、特に焦点となった。

技術、情報、交流、国際的なネットワーク、そして協力。これらこそが、EMOが50年間体現してきたものだ。45カ国から1,600社を超える出展者と、多彩な関連プログラムを通じて、生産の近代化と高度化に向けた様々なソリューションが紹介された。

「スマートで印象的な技術ソリューションが豊富に存在する。今回のEMOはそれを如実に示した」と、EMO2025のジェネラルコミッショナーであるカール・マーティン・ウェルカー氏は述べている。「これらのソリューションが効果を発揮するには、投資促進エンジンを今こそ始動させる必要がある。3年間の投資抑制の後、多くのプロジェクトが進行中ですが、政治情勢の不確実性が依然として投資にブレーキをかけている」とウェルカー氏は続ける。

海外、特に欧州以外では、投資意欲は既に高まっている。来場者調査では、欧州からの来場者の3分の2が投資意向を示している。ドイツでは、その割合は半分以下である。これは、ドイツの工作機械業界への海外からの受注の現在の傾向に反映されており、2025年の最初の7か月間で前年同期比6%増加した。一方、ドイツからの需要は同時期に22%減少した。それでも、EMO出展者は売上を報告している。オークマ・ヨーロッパのマネージングディレクター、ノルベルト・ティーウェン氏は次のように述べている。「EMOとオークマを結びつけるのは、まさに『可能性を開く』ということだ。今回の展示会は大成功であった。多くの売上に加え、ブースから直接お客様に展示機3台を販売することができた。」

自動化は業界のホットトピック

業界の大きな話題となっているのは自動化である。これは、コスト削減と熟練労働者の不足によって引き起こされている。調査対象となった来場者の50%が、自動化によって生産性を向上させる方法に関心を示している。「ここでは自動化が至る所で見られ、大きな違いを生み出す」と、米国のCNCメカニック、アーロン・モリル氏は述べている。約140社のロボットメーカーがEMOで印象的なデモンストレーションを行ったように、ロボット活用の重要性は高まっている。ファナック・ヨーロッパのCEO、クラウス・ヴィンケルマン氏は次のように述べている。「ロボットは工作機械業界においてますます重要になる。産業用ロボットは人間のオペレーターと共存し、将来的には最も効率的なソリューションを提供するようになるであろう。」

デジタル化と持続可能性へのインターフェース

来場者の3分の1以上が、デジタル化とAIの新たな側面について学びたいと考えている。「センサーからのデータ処理の可能性を最大限に活用することで、プロセスの生産性が向上する。AIはこれに役立ち、工場の品質を向上させる」と、チェコ共和国のスタートアップ企業4dot MechatronicsのCEO、ヤン・オトウパキク氏は述べた。これは、中央イノベーションステージで毎日開催され、生産におけるAIの様々な側面に焦点が当てられたP.O.P.トークスの人気にも反映されている。

自動化、デジタル化、そして人工知能は、生産性、効率性、そして品質の向上を保証する。これにより、例えばエネルギーや材料の効率化が促進され、生産における持続可能性も向上する。持続可能性は、研究や才能ある若者にとって重要な要素である。「私たちは様々な解決策に取り組んでいる。重要な例の一つは、生産システムのエネルギー消費量を削減することである。例えば、冷却剤の流量を減らし、可能な限りではなく、必要な量だけを使用するようにする。これは以前の戦略だ。これにより、ポンプのエネルギーと電力を最大95%、生産システム全体のエネルギー消費量を最大60%削減できる。」と、ライプニッツ・ハノーバー大学のベレンド・デンケナ教授は述べている。

国際的な経営者のためのトッププラットフォーム

EMOは、今回も経営者とバイヤーにとって最高のプラットフォームであることが証明された。来場者アンケートでは、回答者の半数以上が、自らを経営幹部または中間管理職であると回答した。

また、調達に関する意思決定権も有している。

全体として、来場者の94%が来場目的を達成できたと感じていた。98%がEMOを「満足」から「非常に良い」と評価した。これは出展者の評価にも反映されている。

EMO 2027は、2027年10月4日から8日までイタリア・ミラノで開催される。

(EMO Press Release 2025年9月26日)

◆スペイン BIEMH 展、共同ブース出展募集

2026年3月2日～6日まで、スペインを代表する先進製造業の見本市であるBIEMH（第33回BIEMH）がビルバオで開催される。毎年偶数年に開催されているこのイベントでは、世界中から主要企業が一堂に会する。

主催のスペイン工作機械工業会（AFM CLUSTER）は、8～10m²のターンキー共同ブースを出展することでスペイン市場を開拓するという、非常に興味深いご提案を行うことにした。このパッケージは、お客様に合わせた商談活動に加え、参加者とスペインのバイヤーを直接繋ぐことを目的としており、7,000ユーロという手頃な価格でご利用いただける。新規企業、または過去2回のBIEMHに出展していない企業もご参加いただける。

日工学会員企業向け共同ブース

スペイン市場を探索する企業向けに、手頃な価格で、以下のサービスをご利用いただける。

- 8～10平方メートルのブース（バックウォール、グラフィックデザイン、カーペット、カウンター、テーブル、椅子付き）。
- 公式カタログとウェブサイトへの無料入場
- B2Bミーティングへの参加
- AIMHE（スペイン工作機械輸入業者協会）会員とのミーティング（www.aimhe.org）
- スペイン市場に関するエグゼクティブレポート
- 3月2日開催のBIEMH 2026での歓迎式典参加特典
- BIEMH FEST：ビルバオ中心部でビジネスコミュニティと交流できる場。ライブミュージック、オープンアクティビティ、活気あふれる雰囲気が魅力です。

条件：

スペイン市場を探索する企業向けに、手頃な価格で、以下のサービスをご利用いただける。

- 参加企業は、過去2回のBIEMHに直接出展していないこと。
この共同ブースは、最低参加社数（各国から最低8社）が必要である。
- 費用合計：7,000ユーロ + VAT

本件連絡先：AMF Cluster www.afmcluster.com

Xabier Ortueta xabier.ortueta@afm.es

Tel: +34-943-309-009

（AMF 2025年9月19日）

5. その他

◆ユーザー産業動向

独ケルン発 Li-S 電池、航空・商用車で実用化へ

独ケルンのスタートアップAltevaは、ドイツ航空宇宙センター(DLR)の研究成果を基盤にリチウム-硫黄(Li-S)電池を開発している。セル重量を従来のリチウムイオン電池の3分の1に抑え、重量が性能を左右する航空機や大型トラックへの適用を狙う。

電池はリチウム製アノードと硫黄カソードで構成され、炭素-硫黄複合材を用いた「カーボンケージ構造」が鍵となる。これにより軽量化と同時に高エネルギー密度、優れたサイクル寿命を実現する。

原料面ではニッケル、コバルト、マンガンといった調達リスクの大きい金属を使わず、入手容易で持続可能な素材を採用している。既存のバッテリー製造設備を利用可能で、大規模生産や市場投入の迅速化が可能とされる。

Altevaは航空機、重量商用車、農業機械、建設機械、鉱山設備を主要ターゲットとする。特に重量削減による航続距離や積載効率の改善が求められる分野に注力する。

安全性の面では、セル構造と材料特性により高い安定性を確保すると説明する。さらにコスト競争力は従来型電池を上回るとされ、環境性・供給安定性・経済性を兼ね備えた次世代電池技術として注目を集める。

Altevaは10月7～8日にベルリンで開かれる再生可能エネルギー研究会(FVVE)年次総会に参加し、研究成果と産業化の展望を発表する予定だ。

(next-mobility. 9月30日付)

<https://www.next-mobility.de/leichte-lithium-schwefel-batterien-fuer-lkw-und-luftfahrt-a-a001504305500a5ef9c9da54ce3a1741/>

BASF とボルシェ、ASR ガス化で自動車部品再生に成功 循環経済へ新手法

化学大手のBASFと自動車大手ボルシェは29日、自動車破碎残渣(ASR)をガス化処理し、自動車部品へ再利用する共同パイロットプロジェクトが成功裏に終了したと発表した。ASRはプラスチックやフィルム、塗料、発泡体など多様な化学物質を含む廃材で、再資源化が難しいとされてきた。両社は今回、ASRからポリウレタンを再生し、ハンドル製造に活用することに成功した。

ガス化は化学リサイクルの一種で、廃材を高温で反応させて合成ガス(シンガス)に変換し、化学原料を取り出す技術。BASFとボルシェはこの手法により、リサイクル資源の新たな供給源を確立できる可能性があるとみている。

ボルシェのサステナビリティ担当者は「循環経済をどう発展させ、化学リサイクルを当社の戦略に長期的に統合できるかを、今回のパイロットで評価できた」と述べた。技術はオーストリアのBEST(バイオエナジー・アンド・サステナブル・テクノロジー)が提供した。

今回の成果は、自動車産業における資源循環の新たな選択肢を示したもので、今後の商業化に向けた実証にもつながると期待される。

(プレスリリース 9月25日付)

<https://www.hithium.com/newsroom/strategy/details/92.html>

中国ハイチウム、ソーラープロと提携 中東欧で最大 2GWh の BESS 導入へ

中国のバッテリーエネルギー貯蔵システム(BESS)大手ハイチウム(Hithium)は25日、スペインの太陽光発電・BESS(定置型エネルギー貯蔵システム)エンジニアリング企業のソーラープロ(Solarpro)と提携し、中東欧地域で大規模なBESS導入プロジェクトを展開すると発表した。両社はハイチウムの最新ソリューション「∞Power 6.25MWh」とソーラープロの技術を統合し、独占的に供給する。設置されるBESSの総蓄電容量は最大2ギガワット時(GWh)に達する見通しだ。

対象国はブルガリア、ハンガリー、ルーマニア、北マケドニアなど。供給するBESSには容量1,175アンペア時(Ah)または587Ahの高性能バッテリーを搭載し、地域の電力システムの安定性向上を狙う。

再生可能エネルギー導入が進む中東欧では、発電量が増えるほど電力価格が下落する「共食い効果」が課題となっている。ハイチウムは長期エネルギー貯蔵システム(LDES)を活用し、余剰電力を吸収して長期の低出力時に放電することで、価格変動の影響を緩和できると見込む。

両社はすでに2024年からブルガリアとハンガリーで大型案件に共同参画しており、今回の枠組みはその協力を中東欧全域に広げるものとなる。

(プレスリリース 9月25日付)

<https://www.hithium.com/newsroom/strategy/details/92.html>

ルーマニア PBT、BESS 工場を拡張 年産能力 8.5GWh へ

ルーマニアのバッテリー大手プライム・バッテリーズ・テクノロジー(Prime Batteries Technology、PBT)は、ブカレストにあるリチウムイオン・エネルギー貯蔵システム(BESS)工場を拡張し、生産能力を現在の2.5ギガワット時(GWh)から8.5GWhへと大幅に引き上げる。投資額は非公表。専門誌『バルカン・グリーンエネルギー・ニュース』が22日に報じた。

PBTは定置型エネルギー貯蔵システム(BESS)に加え、電気自動車(EV)、工業生産、電力網向けにも製品を供給している。同社は欧州におけるバッテリー産業の成長企業として注目されており、今回の拡張は域内のエネルギー転換需要の高まりに応えるものとみられる。

出資者であるプライベートエクイティファンドT2Yの創業者パトリック・ベッツシャイダー氏は、PBTが中国依存に頼らないサプライチェーンを構築している点を強調した。工場の製造設備は韓国製を導入し、原材料は日本、韓国、欧州の供給企業から調達しているという。

この動きは、欧州における戦略的なバッテリー供給網の多様化を後押しし、域内のエネルギー安全保障強化にもつながるとみられる。

(balkangreenenergynews 9月22日付)

<https://balkangreenenergynews.com/prime-batteries-expanding-battery-storage-manufacturing-capacity-in-romania/>

トルコ YESS パワー、北マケドニアで西バルカン最大級 BESS 設置へ

トルコのエネルギー・エンジニアリング企業イエス・パワー(YESS Power)は、北マケドニア南部ノバツィの太陽光発電所に出力60メガワット(MW)の定置型エネルギー貯蔵システム(BESS)を設置する。試運転開始は11月を予定しており、西バルカン地域で最大規模のBESSとなる。専門誌『バルカン・グリーンエネルギー・ニュース』が22日に報じた。

設置対象となるノバツィの太陽光発電所は出力55MW、敷地面積57ヘクタールを誇り、年間発電量は85ギガワット時(GWh)に達する。これは北マケドニア国内で約3万世帯分の電力需要に相当する。

BESS本体は中国のキューブエナジー (Cubenergy)が製造し、イエス・パワーは発電所全体のエンジニアリング、設置、保守を担う。これにより再生可能エネルギーの安定供給を可能にし、電力系統の信頼性向上につなげる狙いだ。

北マケドニアでは再生可能エネルギー拡大に伴い蓄電需要が高まっており、トルコのフォルティス・エナジーも西部オスロメイの太陽光発電所にBESSを増設する計画を進めている。今回の動きは同国におけるエネルギーインフラの強化を後押しするものとみられる。

(balkangreenenergynews 9月22日付)

<https://balkangreenenergynews.com/yess-power-set-to-commission-western-balkans-first-large-battery-energy-storage-system/>

独ザルツギター、水素製鉄計画を一部延期 経済・規制環境の悪化で

ドイツ鉄鋼大手ザルツギター (Salzgitter)は、進行中の水素製鉄プロジェクト「SALCOS」の一部工程を先送りする方針を示した。グンナール・グレプラー社長(同国鉄鋼業界団体シュタール会長)が明らかにしたもので、「2022年以降、経済環境と政治・規制の枠組みが大幅に悪化した」と説明した。

SALCOSは本社所在地ザルツギターで進める低炭素製鉄プロジェクトで、従来の高炉でのコークス利用を改め、還元剤にグリーン水素を導入する計画。国とニーダーザクセン州から総額10億ユーロの補助金を受給することが決まっている。

プロジェクトは3段階に分かれており、第1段階は計画通り2027年上半期に稼働開始する。一方、第2段階と第3段階は3年延期する方針で、投資決定の時期も従来の2026年から2028～29年に先送りする。

ドイツでは今年6月、アルセロールミタルが補助金を受けても採算が取れないとして水素製鉄プロジェクト撤回を表明。国内最大手ティッセンクルップ・スチールの計画も厳しい状況にあり、国内鉄鋼業界の脱炭素戦略は逆風に直面している。

(handelsblatt 9月19日付)

<https://www.handelsblatt.com/unternehmen/industrie/salcos-projekt-stahlkonzern-salzgitter-verzoegert-investitionen-in-gruenen-umbau/100156520.html>

インフィニオンとローム、SiC パワーデバイスでパッケージ協業

独半導体大手インフィニオン・テクノロジーズは25日、ロームとSiC (炭化ケイ素)パワーデバイスのパッケージ分野で協力する覚書を締結したと発表した。車載充電器、太陽光発電、エネルギー貯蔵システム、AIデータセンターなどで需要が高まるSiCデバイスについて、相互供給が可能なセカンドソース体制を構築する。ユーザー企業は両社から互換性のある製品を調達できるようになり、設計や調達の自由度が増す。

協業の一環として、ロームはインフィニオンの「トップサイド冷却プラットフォーム」を採用する。同プラットフォームは全パッケージの高さを2.3ミリに標準化しており、設計の簡略化や冷却コストの削減、基板スペースの効率化を実現する。さらに従来比で最大2倍の電力密度向上につながるとされる。

一方、インフィニオンはロームのSiCモジュール「DOT-247」（ハーフブリッジ構成）を採用し、互換性のあるパッケージを新たに開発する。これにより、同社が発表したダブルTO-247 IGBT製品群にSiCハーフブリッジソリューションが加わる。

両社は今後、シリコンやGaN（窒化ガリウム）を用いたパワーデバイスの分野でもパッケージ協業を広げ、幅広いソリューションと調達の選択肢を提供する計画だ。

インフィニオンとロームが協業

（プレスリリース 9月25日付）

<https://www.infineon.com/press-release/2025/INFXX202509-149>

エヌビディア、音声生成 AI のイレブンラボに戦略出資

米半導体大手エヌビディアは23日、音声生成AIを開発する米新興企業イレブンラボ(ElevenLabs)に戦略出資すると発表した。出資額は非公開だが、同社の評価額は出資前時点で66億ドル(約1兆円)に達しており、ポーランド系スタートアップとしては過去最高水準となる。

イレブンラボはポーランド出身の起業家が立ち上げた企業で、AIを用いた自然なイントネーションや強勢を再現できる音声合成技術を提供している。音声の生成に加え、人工音声を自在に設計できるツールも備えており、メディアやエンターテインメント業界を中心に導入が進んでいる。

エヌビディアは生成AI分野でのソフトウェア・ハードウェア基盤強化を進めており、今回の出資もその一環となる。イレブンラボのマティ・スタニシェフスキー最高経営責任者(CEO)は「エヌビディアはGPUの深い知識を持ち、戦略的に導入している。我々が求めていたのは資本以上の価値を提供できるパートナーだ」と語った。

両社は今後、音声生成AIのさらなる高度化や新市場での応用拡大に向けて協力を強める見通しだ。

(evertiq. 9月25日付)

<https://evertiq.com/design/2025-09-25-polish-startup-elevenlabs-secures-funding-from-nvidia>

SAP、独公共部門向け主権クラウドでオープン AI と協業

独IT大手SAPは24日、来年立ち上げる予定の公共部門向け主権クラウドサービスで、米人工知能(AI)開発企業オープンAIと協業すると発表した。公共機関の職員や研究者が利用するAIアプリケーションを提供し、業務効率化やデータ活用を支援する狙い。

SAPのクリスティアン・クライン最高経営責任者(CEO)は「SAPの主権クラウドのノウハウとオープンAIの先進技術を結び付けることで、ドイツのためにドイツで開発されるAIソリューションを切り開く」と強調した。

主権クラウドはSAP子会社デロスが運営し、マイクロソフトの「アジュール」を基盤とする。データ保護やコンプライアンス面で最高水準の要件を満たすことが求められ、連邦情報技術セキュリティ庁(BSI)の認証を取得予定だ。一般ネットワークから分離され、デロスが承認したデータやプログラムのみが取り扱われる厳格な仕組みとなる。

オープンAIの協力により、利用者はオーダーメイドのAIアプリケーションを開発し、既存ワークフローに統合できる。これにより文書管理やデータ分析が自動化され、職員がより創造的な業務に集中できるようになる。

SAPは今回の協業を独占的とせず、今後も複数のAI企業と連携を広げる方針だ。公共部門以外の産業や他国への展開も視野に入れており、欧州のクラウド主権確保の流れの中で存在感を高める構えだ。

(プレスリリース 9月24日付)

<https://openai.com/global-affairs/openai-for-germany/>

EU、チェコで2番目の量子コンピューター完成 EuroHPC 計画

欧州委員会は23日、EUの「欧州高性能コンピューティング共同事業(EuroHPC)」に基づき建設が進められていた2番目の量子コンピューター「VLQ」がチェコで完成したと発表した。調整作業を経て、年末までに運用を始める。

EuroHPCは、世界最高水準の高性能コンピューター (HPC) 基盤を整備するためにEUと加盟国が共同出資して設立した官民連携の事業体。研究や産業利用を通じ、欧州のデジタル競争力を強化する狙いがある。

VLQはチェコ東部の工業都市オストラヴァに設置された。EuroHPCとチェコ、ポーランド、オランダなど8カ国がコンソーシアムを組んで資金を拠出。既存のスーパーコンピューター「カロリーナ」と連動し、欧州域内の学界や産業界、公共機関が利用可能なネットワークを形成する。

EUは2021年にデジタルインフラ戦略「デジタル・コンパス」を策定。その中で量子技術をHPCに統合する方針を掲げ、域内6カ所に量子コンピューターを導入する計画を進めている。1号機となる「PIAST-Q」はポーランドで2025年6月に完成しており、今回のVLQはこれに続く事例となる。

(meetiqm.com 9月23日付)

<https://meetiqm.com/press-releases/lumi-q-consortium-unveils-the-vlq-quantum-computer-for-the-czech-and-european-science-community/>

Vodafone と BASF、ミュンスター工場で 5G キャンパスネットワーク実証開始

欧州通信大手Vodafoneのドイツ法人は、化学大手BASFの塗料部門BASF Coatingsが運営するミュンスター工場で、5Gキャンパスネットワークのパイロットプロジェクトを始めた。期間は1年間で、無人搬送システムやスマートセンサー、工場敷地の監視といった応用シナリオを検証し、高速かつ安定・安全な通信基盤によるデジタル化の可能性を探る。

専用の5Gネットワークは、保護されたインフラとして機密データや重要アプリケーションを安全に処理できるのが特徴だ。従来の複雑なケーブル配線を必要とせず、無人搬送システムやセンサー活用、既存の無線LAN(WLAN)との拡張利用が可能となる。さらに新たな生産エリアや倉庫スペースへの対応も容易で、拡張現実(AR)やデジタルツインといった次世代技術の基盤づくりに寄与するとしている。

この取り組みは、両社が既にシュヴァルツハイデ拠点で進めてきた5Gキャンパスネットワーク実証に続くもの。Vodafoneは現在、ドイツ国内で人口の93%以上を5Gネットワークでカバーしており、産業機械向けネットワーク「Narrowband IoT」も97%以上を網羅。ケーブル・光ファイバーを通じ、全世帯の約3分の2にギガビット通信を提供している。

(プレスリリース 9月22日付)

<https://newsroom.vodafone.de/basf-coatings-und-vodafone-starten-pilotprojekt-fuer-eigenes-5g-netz-am-standort-muenster>

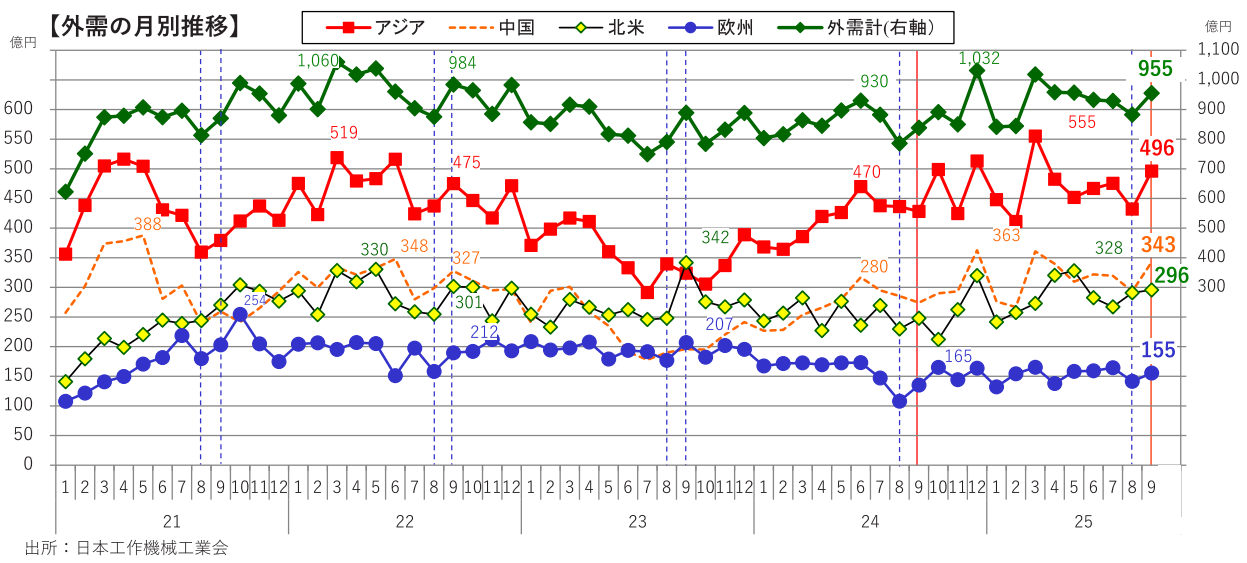
6. 日工会外需状況（8月）

外需【9月分】

955.0億円（前月比 +8.2% 前年同月比 +13.9%）

外需総額

- ・前月比は6カ月ぶりの増加、前年同月比では12カ月連続増加し、13カ月連続の800億円超え。950億円超えは4カ月ぶり。
- ・外需は、世界経済と需要業種の不透明感は払拭されず、概して緩やかな動きとなる。



外需【9月分】

主要3極別受注

①アジア

アジア計は、2カ月ぶりの450億円超え。

- 東アジアは、2カ月ぶりの350億円超え。
- 中国は2カ月ぶりの300億円超えで、2025年の平均より高い水準。
- その他アジアは5カ月連続の100億円超え。
- インドは2カ月ぶりに50億円超え。

②欧州

欧州計は、2カ月ぶりの150億円超え。

- ドイツは、前月比で30%超えの増加、4カ月ぶりの36億円超え。
- イタリアは、2カ月ぶりの20億円超え。2025年の平均並みの水準。

③北米

北米計は、前月比、前年同月比で増加し、8カ月連続の250億円超え。

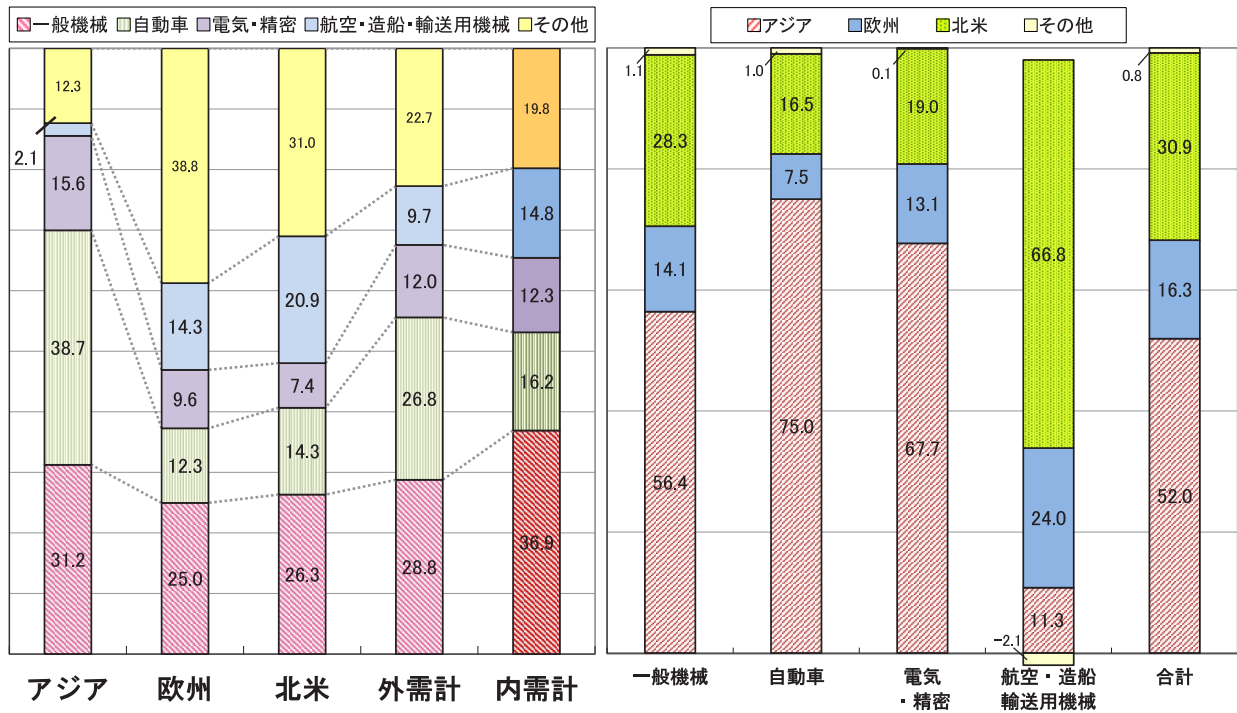
- アメリカは、前月比、前年同月比増加し、2025年の平均よりやや高い250億円超え。
- メキシコは、4カ月ぶりの25億円超え。

国・地域	受注額 (億円)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
アジア	496.1	+14.9 2カ月ぶり増加	+15.9 2カ月ぶり増加
東アジア	383.0	+17.7 3カ月ぶり増加	+20.5 2カ月ぶり増加
韓国	25.3	+21.3 2カ月連続増加	+23.8 5カ月ぶり増加
中国	342.8	+16.9 3カ月ぶり増加	+25.0 18カ月連続増加
その他アジア	113.1	+6.0 2カ月ぶり増加	+2.7 5カ月連続増加
インド	53.2	+6.8 2カ月ぶり増加	△3.8 2カ月連続減少
欧州	155.4	+9.9 2カ月ぶり増加	+15.1 3カ月連続増加
ドイツ	36.0	+32.5 4カ月ぶり増加	+0.8 2カ月連続増加
イタリア	22.5	+29.9 2カ月ぶり増加	+0.9 3カ月連続増加
北米	295.5	+1.6 2カ月連続増加	+19.3 2カ月連続増加
アメリカ	259.0	+7.6 2カ月連続増加	+16.9 8カ月連続増加
メキシコ	25.4	+81.6 5カ月ぶり増加	+96.1 3カ月ぶり増加

出所：日本工作機械工業会

外需【9月分】

主要3極別・業種別受注構成

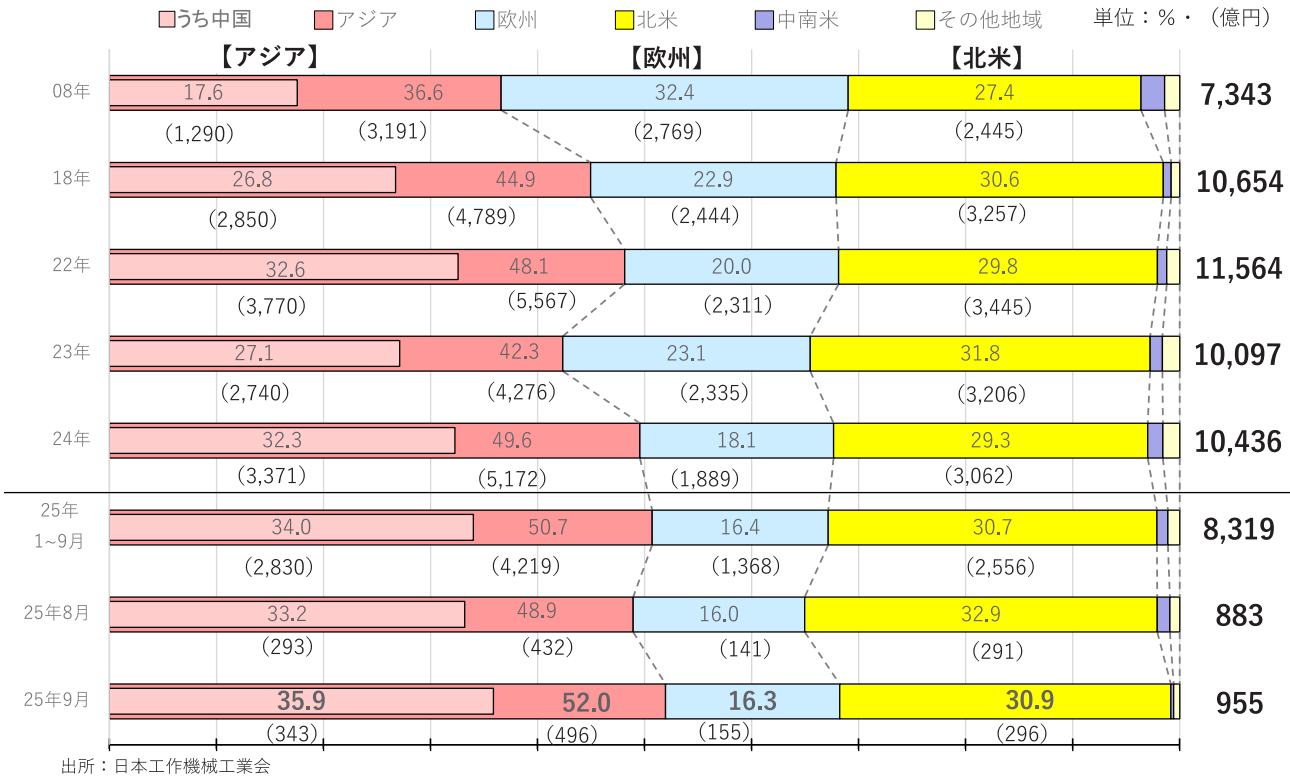


出所：日本工作機械工業会

出所：日本工作機械工業会

外需 地域別構成の推移

9月は、2カ連続北米比率が30%を超え。



出所：日本工作機械工業会

お知らせ

インド最大級工作機械展



IMTEX 2027

日本パビリオン
出展募集

日程: 2027年1月21日(木)~27日(水)

会場: バンガロール・国際展示場(BIEC)



主 催



Indian Machine Tool
Manufacturers' Association

インド工作機械工業会



バンガロール国際展覽センター



会 場

「メイク・イン・インド」



インド首相
ナレンドラ・モディ

製造業の発展による経済成長が期待される、
これからのインド

「メイク・イン・インド(インドでモノづくりを)」
を新たな産業政策に掲げ、モディ首相は、製造業を
軸とした経済成長を実現しようとしています。政府が
規制緩和やインフラ整備に積極的に取り組んでいる
ことから、世界のメーカーがインドでの事業拡大に
動き始めています。

同時開催



ツールテック展示会



デジタルマニュファクチャリング展示会

日本パビリオン共同運営



一般社団法人

日本工作機械工業会

日本代表事務局



特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

運 営



日印コンサルティング株式会社

IMTEX 2027(インド工作機械展) 出展のご案内

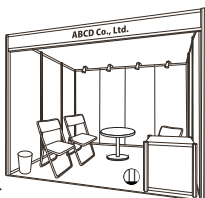


出展費用

A パッケージブース 365USD/m² (Min.15m²) +TAX

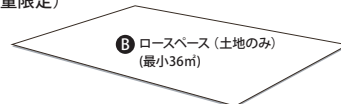
- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)
- ④ 受付カウンター1台
- ⑤ 会議用丸テーブル1台
- ⑥ 椅子3脚
- ⑦ スポットライト (100w) 4個
- ⑧ 電源1ヶ所
- ⑨ ゴミ箱1ヶ所
- ⑩ カーペット

A パッケージブース
(最小12m²)



B ロースペース 330USD/m² (Min.36m²) +TAX

- ① 貴社名の展示会ガイドブック記載
- ② スペース
- ③ 出展者バッジ (数量限定)



B ロースペース (土地のみ)
(最小36m²)

C 1コーナー出展 1,500USD / 1コーナー + TAX

展示台とパネルがセットになった出展です。
パネル印刷費用は含まれています。
パネルデザイン費用と輸送費用は含まれておりません。

※ 上記A,B小間費用にはインド消費税18%が別途掛かります。
※ 電気料金は別途費用になります。
※ 角ブースは別途費用がかかります。
2面オープン+20% / 3面オープン +30% / 4面オープン +50%
※ 運営管理費用15%

日本パビリオン

装飾

- 装飾業務
設計・施工・デザイン/レイアウト・企画運営進行管理・現場監督
- その他の関連業務
 - 制作物業務
パンフレット・フライヤー・製品カタログ/パネルデザイン/運営進行管理
 - 映像業務
VJ・ビデオ製作・ナレーション/吹き替え・レイアウト企画運営進行管理
 - 運営関連業務
セミナー・ノベルティ・コンパニオン・通訳・ナレーター・レセプションアレンジ

輸送

- 日本からの一括輸送を致します。
輸出通関申告費用/税関検査関係費用/税関出張費用/検査立会費用
カルネ手配費用/船積み諸経費/保税上屋入出庫費/保税上屋運送費
コンテナ積み込み費/コンテナ維持費/海上運賃/船積書類
及び通関書類/輸入地費用/維持費/貨物上屋入出庫費
コンテナ引取費/会場内運搬費/開梱費用/据付補助費
空箱コンテナヤード運送費/その他現場運営管理費
- * 展示会主催者の規定によりオフィシャルフォワードが指定されております。

出展までの日程フロー

2025年



出展ご検討中の方は仮申し込みをおすすめ致します

- ※ ノンオブレーションで仮押さえさせていただきます。
- ※ スペースが無くなり次第、出展募集は締め切らせて頂きます。

仮申し込み締め切り日

- 1st 2026年2月27日(金)
- 2nd 2026年3月27日(金)
- 3rd スペースがあれば可能

2026年



展示会コンサルティング及び実務サポートのご案内

- ① コンサルティング・リサーチ(売上に直結する)
- ② マーケティング・販売戦略・企画・運営・実働
- ③ プロモーション・PR
(展示会事前PR・ミーティングセットアップ)
- ④ 展示会企画運営実行
- ⑤ セミナー・コンファレンス・学会企画運営実施
- ⑥ 貿易実務・ロジスティック・据付
- ⑦ 法人設立
(事務所/ショールーム/工場ロケーション提案等)
- ⑧ BIS取得サポート
- ⑨ 人材サポート
(高度技術スタッフ、技術指導員、エンジニア、SE等)

お申し込み・お問い合わせ

出展申込は右記QRコード、またはメールでご連絡ください。 [出展申込リンク](#)



日本代表事務局

JJBE 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー

〒107-0052 東京都港区赤坂1-3-13 溜池鈴木ビル3F

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ info@ji-consulting.jp

HP <https://ji-consulting.jp>

運営

JJC 日印コンサルティング株式会社



一般社団法人
日本工作機械工業会

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 機械振興会館1階

担当 本多 ☎ 03-3434-3961 (代表)

✉ honda@jmtba.or.jp

「インドBIS認証セミナー」



開催のご案内

日時

2025年11月10日(月)
14:00～16:00 受付開始
13:30～

会場

機械振興会館 地下3階 研修室1

東京都港区芝公園3-5-8 日本工作機械工業会ビル内
<https://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

このたび、インド向け工作機械輸出に関わるBIS認証制度(Scheme-X)について、最新情報と日本国内での支援体制をご紹介しますセミナーを下記の通り開催いたします。本セミナーでは、インド政府認定試験機関である AMTTF (Advanced Machine Tool Testing Facility) の担当者が来日し、現地の審査運用や認証制度のポイントをご説明いただきます。また、日印ビジネスビューローより、日本企業向けの具体的なサポート内容についてもご紹介いたします。

会場参加・オンライン参加のいずれも可能です。

BIS認証への対応をご検討中の企業様にとって、有益な情報を得られる機会となりますので、ぜひご参加ください。

セミナー開催概要

定員	会場参加 80名(先着順) オンライン参加 300名(Microsoft Teams)
参加形式	ハイブリッド開催(会場/オンライン)
主催	Advanced Machine Tool Testing Facility (AMTTF)
後援	一般社団法人 日本工作機械工業会
協力	特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー (JIBB)
運営	日印コンサルティング株式会社 (JIC)

プログラム(予定)

13:30～	受付開始(会場)
14:00～	開会のご挨拶
14:05～	AMTTFによる「BIS認証制度と審査のポイント」
14:45～	日印ビジネスビューロー「日本企業向け申請支援の実務」
15:15～	質疑応答
15:55～	閉会挨拶

お申込み方法

下記の参加申込フォームより、会場またはオンラインいずれかのご参加方法をお選びのうえ、お申し込みください。

参加費
無料

参加申込フォーム



<https://forms.office.com/r/hZLV6ba0Ef>

※オンライン参加をご希望の方には、お申し込み後に参加用のTeamsリンクをお送りします。

※なお、当日アンケートにご回答いただいた方には、セミナーで使用了プレゼンテーション資料を後日お送りします。

セミナー情報「IMTEX 2027(2027年1月21～27日)説明会」

インド工作機械工業会来日

日時

2025年12月3日(水) 14:00～16:00(予定)

セミナー申込



主催: インド工作機械工業会 (IMTMA)

会場	〒105-0011 東京都港区芝浦公園3-5-8 機械振興会館(オンラインあり)	協力	特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー
後援	一般社団法人 日本工作機械工業会	展示会事務局	日印コンサルティング株式会社

お問い合わせ

JIBB 特定非営利活動法人 日印ビジネスビューロー JIC 日印コンサルティング株式会社

担当 安井 ☎ 090-9325-3456 ✉ yasui@ji-consulting.jp 橋倉 ☎ 080-6516-4331 ✉ trade@ji-consulting.jp